

利用者アンケート調査結果（速報版）

1. 実施調査の概要

調査概要

項目	概要																																																																																																																																																																
調査の目的	東北地方の居住者を対象として、公共交通に対する「認知度」、「愛着度」、「満足度」、「重要度」を把握し、全国との比較等に基づき東北の公共交通を取り巻く環境を評価のうえ、東北地方の現況分析、及び今後の公共交通の維持・確保に向けた施策の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的として実施。																																																																																																																																																																
調査対象	東北6県全域を対象とし、公共交通利用者に限らず、16歳以上の居住者全体を対象として実施。なお、調査データの偏りを防ぐために、実際の人口比率に合わせて、地域別・性別・年齢階層別等の属性別に回答可能者数を設定した。																																																																																																																																																																
調査方法	幅広い層からの回答を得るために、インターネットモニターを活用したweb調査とした。																																																																																																																																																																
インターネットモニター数	東北地方全体で 89,329 人が登録（平成 21 年 10 月 21 日現在） <table><tr><th></th><th>総計</th><th colspan="6">男性</th></tr><tr><th></th><th></th><th>10代</th><th>20代</th><th>30代</th><th>40代</th><th>50代</th><th>60代</th></tr><tr><td>青森県</td><td>12,917</td><td>164</td><td>1,100</td><td>2,378</td><td>2,056</td><td>808</td><td>227</td></tr><tr><td>岩手県</td><td>11,427</td><td>128</td><td>1,028</td><td>2,261</td><td>1,917</td><td>828</td><td>237</td></tr><tr><td>宮城県</td><td>28,417</td><td>275</td><td>2,513</td><td>5,065</td><td>4,429</td><td>1,978</td><td>719</td></tr><tr><td>秋田県</td><td>9,929</td><td>161</td><td>837</td><td>1,910</td><td>1,633</td><td>752</td><td>221</td></tr><tr><td>山形県</td><td>10,355</td><td>136</td><td>967</td><td>1,996</td><td>1,754</td><td>825</td><td>263</td></tr><tr><td>福島県</td><td>16,284</td><td>207</td><td>1,317</td><td>3,273</td><td>2,689</td><td>1,238</td><td>440</td></tr><tr><td>■東北／総計</td><td>89,329</td><td>1,071</td><td>7,762</td><td>16,883</td><td>14,478</td><td>6,429</td><td>2,107</td></tr><tr><td>性別年代別比率</td><td>100%</td><td>1%</td><td>9%</td><td>19%</td><td>16%</td><td>7%</td><td>2%</td></tr></table> <table><tr><th></th><th>総計</th><th colspan="6">女性</th></tr><tr><th></th><th></th><th>10代</th><th>20代</th><th>30代</th><th>40代</th><th>50代</th><th>60代</th></tr><tr><td>青森県</td><td>12,917</td><td>104</td><td>1,431</td><td>2,814</td><td>1,379</td><td>382</td><td>74</td></tr><tr><td>岩手県</td><td>11,427</td><td>82</td><td>1,149</td><td>2,234</td><td>1,162</td><td>340</td><td>61</td></tr><tr><td>宮城県</td><td>28,417</td><td>206</td><td>3,089</td><td>6,094</td><td>2,949</td><td>879</td><td>221</td></tr><tr><td>秋田県</td><td>9,929</td><td>71</td><td>1,052</td><td>1,904</td><td>1,000</td><td>326</td><td>62</td></tr><tr><td>山形県</td><td>10,355</td><td>90</td><td>1,142</td><td>1,836</td><td>978</td><td>296</td><td>72</td></tr><tr><td>福島県</td><td>16,284</td><td>107</td><td>1,519</td><td>3,262</td><td>1,620</td><td>495</td><td>117</td></tr><tr><td>■東北／総計</td><td>89,329</td><td>660</td><td>9,382</td><td>18,144</td><td>9,088</td><td>2,718</td><td>607</td></tr><tr><td>性別年代別比率</td><td>100%</td><td>1%</td><td>11%</td><td>20%</td><td>10%</td><td>3%</td><td>1%</td></tr></table> 注）10代：16～19歳		総計	男性								10代	20代	30代	40代	50代	60代	青森県	12,917	164	1,100	2,378	2,056	808	227	岩手県	11,427	128	1,028	2,261	1,917	828	237	宮城県	28,417	275	2,513	5,065	4,429	1,978	719	秋田県	9,929	161	837	1,910	1,633	752	221	山形県	10,355	136	967	1,996	1,754	825	263	福島県	16,284	207	1,317	3,273	2,689	1,238	440	■東北／総計	89,329	1,071	7,762	16,883	14,478	6,429	2,107	性別年代別比率	100%	1%	9%	19%	16%	7%	2%		総計	女性								10代	20代	30代	40代	50代	60代	青森県	12,917	104	1,431	2,814	1,379	382	74	岩手県	11,427	82	1,149	2,234	1,162	340	61	宮城県	28,417	206	3,089	6,094	2,949	879	221	秋田県	9,929	71	1,052	1,904	1,000	326	62	山形県	10,355	90	1,142	1,836	978	296	72	福島県	16,284	107	1,519	3,262	1,620	495	117	■東北／総計	89,329	660	9,382	18,144	9,088	2,718	607	性別年代別比率	100%	1%	11%	20%	10%	3%	1%
	総計	男性																																																																																																																																																															
		10代	20代	30代	40代	50代	60代																																																																																																																																																										
青森県	12,917	164	1,100	2,378	2,056	808	227																																																																																																																																																										
岩手県	11,427	128	1,028	2,261	1,917	828	237																																																																																																																																																										
宮城県	28,417	275	2,513	5,065	4,429	1,978	719																																																																																																																																																										
秋田県	9,929	161	837	1,910	1,633	752	221																																																																																																																																																										
山形県	10,355	136	967	1,996	1,754	825	263																																																																																																																																																										
福島県	16,284	207	1,317	3,273	2,689	1,238	440																																																																																																																																																										
■東北／総計	89,329	1,071	7,762	16,883	14,478	6,429	2,107																																																																																																																																																										
性別年代別比率	100%	1%	9%	19%	16%	7%	2%																																																																																																																																																										
	総計	女性																																																																																																																																																															
		10代	20代	30代	40代	50代	60代																																																																																																																																																										
青森県	12,917	104	1,431	2,814	1,379	382	74																																																																																																																																																										
岩手県	11,427	82	1,149	2,234	1,162	340	61																																																																																																																																																										
宮城県	28,417	206	3,089	6,094	2,949	879	221																																																																																																																																																										
秋田県	9,929	71	1,052	1,904	1,000	326	62																																																																																																																																																										
山形県	10,355	90	1,142	1,836	978	296	72																																																																																																																																																										
福島県	16,284	107	1,519	3,262	1,620	495	117																																																																																																																																																										
■東北／総計	89,329	660	9,382	18,144	9,088	2,718	607																																																																																																																																																										
性別年代別比率	100%	1%	11%	20%	10%	3%	1%																																																																																																																																																										
調査時期	平成21年11月20日（金）～平成21年12月4日（金）																																																																																																																																																																
回収状況	最終回収数として設定した各県 250 サンプル、合計 1,500 サンプルを上回る、1,700 サンプルの回収を得た。																																																																																																																																																																

調査項目

問 1 回答者属性
(1) 性別 (2) 年齢 (3) 居住地 (4) 自動車免許の保有状況 (5) 世帯の自動車保有状況 (6) 家族構成
問 2 普段の移動実態
(1) 主に利用する交通手段 通勤・通学 買物 通院 (2) 公共交通の利用状況
問 3 居住地域の状況
(1) 居住地域において運行されている公共交通 (2) 最寄駅・最寄停留所の名称・距離 (3) 最寄駅・最寄停留所の利用頻度差異 (4) 最寄駅又は最寄停留所の公共交通運行頻度
問 4 公共交通のサービス等に対する考え
(1) 満足状況とサービス改善に対する意向 (2) 公共交通に対する総合的な評価
問 5 公共交通機関の維持・確保に対する考え
(1) 公共交通機関の維持・確保が困難な状況にあることの認知・不認知 (2) 公共交通機関の必要性 (3) 公共交通機関の維持・確保のためにできること (4) 公共交通機関の維持・確保のために実践していること (5) 公共交通機関の維持・確保のために実践していない理由
問 6 公共交通に関する意見等（自由意見）

2. 基礎集計（速報値：サンプルベース）

（1）回答者属性

自動車免許は 89.2%が保有しており、93.6%が自分専用又は家族共用の自動車がある。
家族構成は、「二世帯」が最も多く 46.5%。

属性別回答者数総括

県	都市規模	男性									合計
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	
青森県	10万人以上	4	7	15	10	10	20	7	3	1	77
	10万人未満	4	5	14	13	10	11	7	2	0	66
岩手県	10万人以上	2	3	12	8	11	9	8	1	2	56
	10万人未満	8	9	12	15	12	15	9	4	0	84
宮城県	10万人以上	5	19	21	19	28	20	15	4	2	133
	10万人未満	7	8	9	23	24	15	12	5	4	107
秋田県	10万人以上	4	5	7	6	9	12	5	3	0	51
	10万人未満	3	12	21	21	14	8	4	5	3	91
山形県	10万人以上	1	4	4	12	10	14	4	1	1	51
	10万人未満	2	12	18	11	18	18	9	4	0	92
福島県	10万人以上	3	9	8	14	12	16	5	9	1	77
	10万人未満	2	8	10	16	9	20	6	4	1	76
合計		45	101	151	168	167	178	91	45	15	961

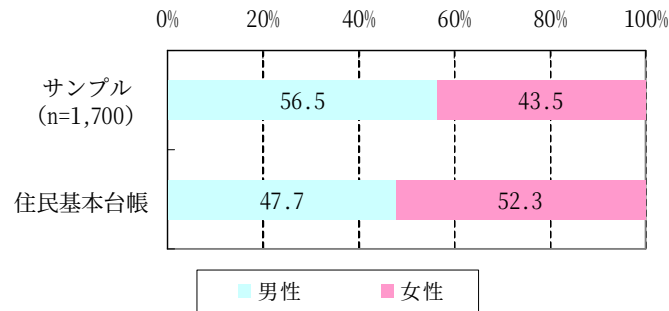
県	都市規模	女性									合計
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	
青森県	10万人以上	1	7	16	14	8	9	2	2	0	59
	10万人未満	5	8	15	13	5	4	1	1	0	52
岩手県	10万人以上	0	2	11	11	12	10	0	0	1	47
	10万人未満	3	14	13	14	12	6	2	0	0	64
宮城県	10万人以上	2	10	23	22	14	19	9	1	2	102
	10万人未満	3	7	15	18	8	9	4	1	2	67
秋田県	10万人以上	2	3	8	9	9	8	1	2	0	42
	10万人未満	3	15	16	22	15	6	0	0	0	77
山形県	10万人以上	1	8	10	5	7	7	2	0	1	41
	10万人未満	4	4	23	12	18	6	5	0	0	72
福島県	10万人以上	3	10	15	9	9	9	3	5	1	64
	10万人未満	4	10	10	7	10	6	0	2	3	52
合計		31	98	175	156	127	99	29	14	10	739

県	都市規模	合計	県合計
青森県	10万人以上	136	254
	10万人未満	118	
岩手県	10万人以上	103	251
	10万人未満	148	
宮城県	10万人以上	235	409
	10万人未満	174	
秋田県	10万人以上	93	261
	10万人未満	168	
山形県	10万人以上	92	256
	10万人未満	164	
福島県	10万人以上	141	269
	10万人未満	128	
合計		1,700	1,700

※住民基本台帳に基づく人口と比較すると、性別及び年齢、居住地にサンプルの偏りがみられる。このため、今後、東北地方全体の傾向として示せるよう、調整係数の付与について検討する。

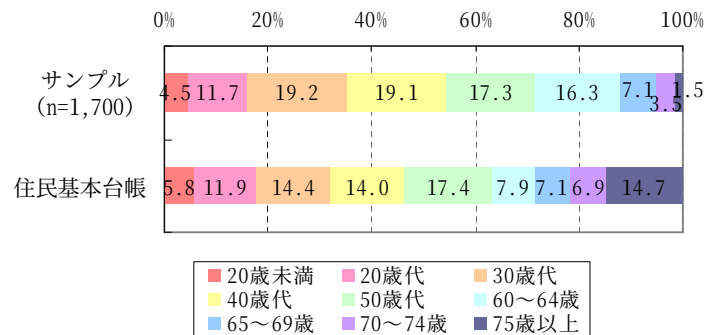
※なお、本資料の集計結果は、サンプルの集計結果であり、調整係数は付与していない。

① 性別



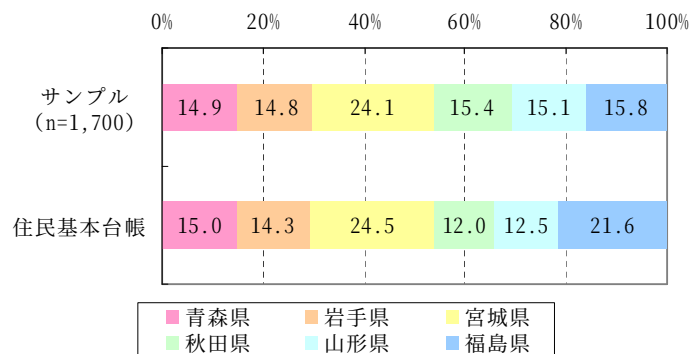
(資料) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（平成 21 年 3 月 31 日現在）、総務省

② 年齢



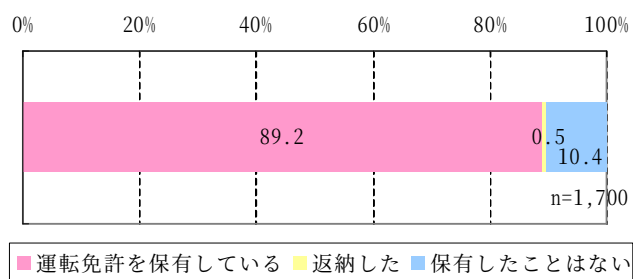
(資料) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（平成 21 年 3 月 31 日現在）、総務省

③ 居住地

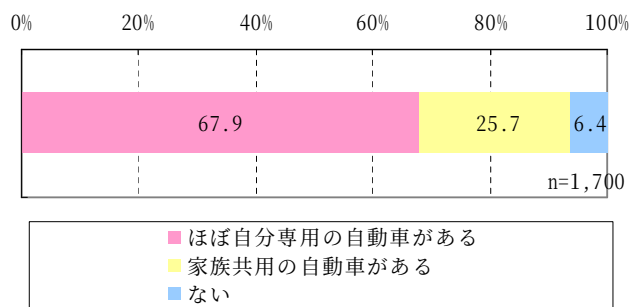


(資料) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（平成 21 年 3 月 31 日現在）、総務省

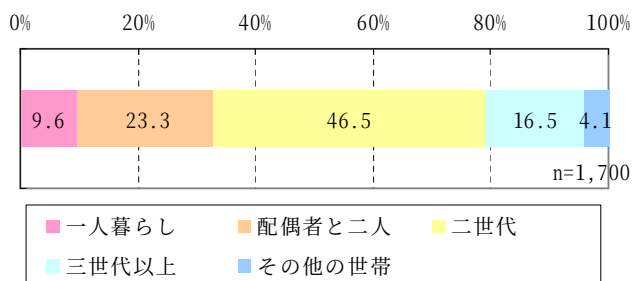
④ 自動車免許の保有状況



⑤ 世帯の自動車保有状況



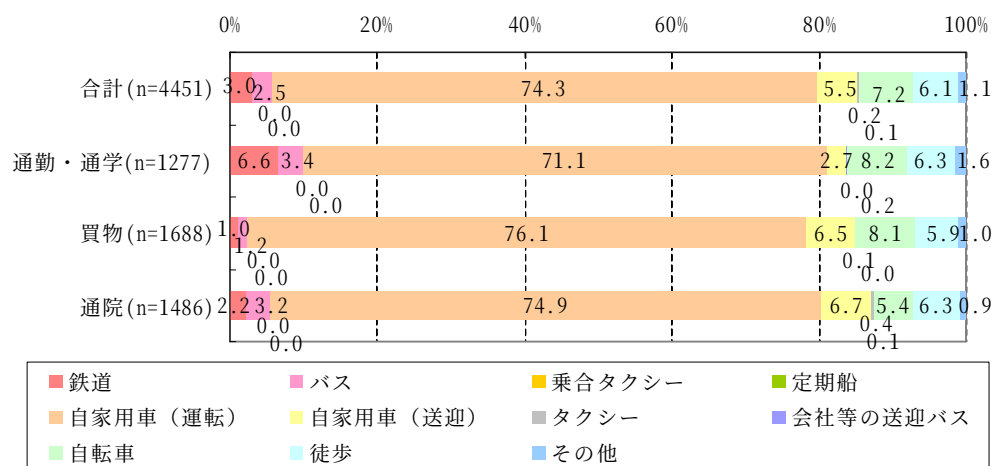
⑥ 家族構成



(2) 普段の移動実態

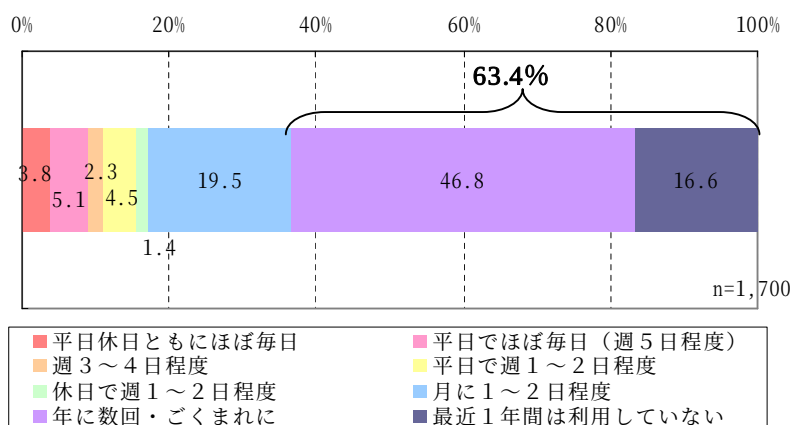
① 主に利用する交通手段

- 「鉄道」、「バス」については、通勤・通学目的での移動時での利用が多く、それぞれ6.6%、3.4%を占める。
- 買物目的では、「自家用車（運転）」が、76.1%を占めている。



② 公共交通の利用状況

- 公共交通を利用するのは「年に数回・ごくまれに」が46.8%と最も多い。
- 「最近1年間は利用していない」とあわせて、定期的に公共交通利用を利用する習慣がないと考えられる回答者は、63.4%である。

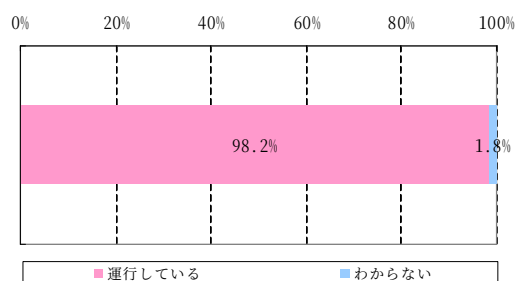


(3) 居住市区町村の状況

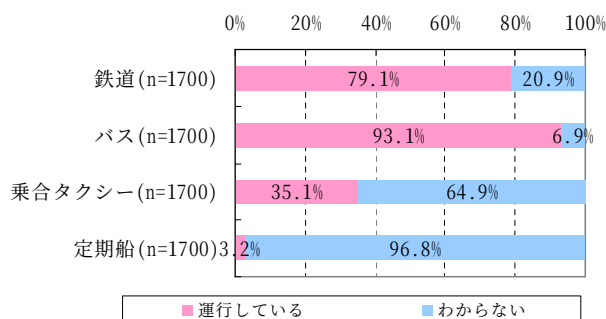
① 居住市区町村において運行されている公共交通

- 居住地域内に運行している公共交通機関について、『バス』94.8%、『鉄道』80.5%、『乗合タクシー』35.7%、『定期船』3.2%の順となっている。
- 居住地域内を運行している公共交通機関を「わからない」と回答した人は1.8%。

公共交通全体の運行認知状況



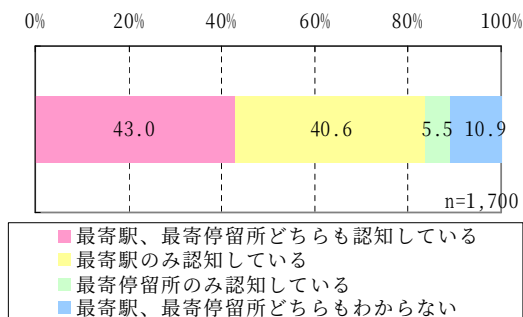
手段別公共交通運行認知状況



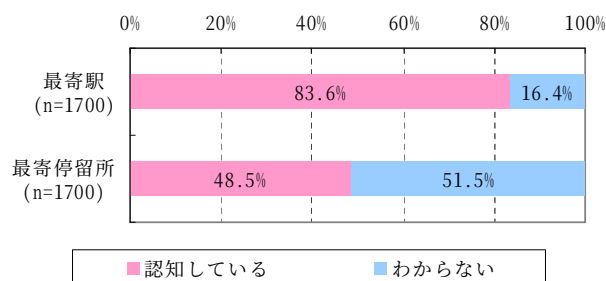
② 最寄駅・最寄停留所の認知

- 「最寄駅、最寄停留所どちらも認知している」が43.0%。
- 「最寄駅」は認知しているが83.6%、「最寄停留所」は認知しているが48.5%と認知度に乖離がみられる。また、「どちらもわからない」が10.9%。

最寄駅・最寄停留所の認知状況

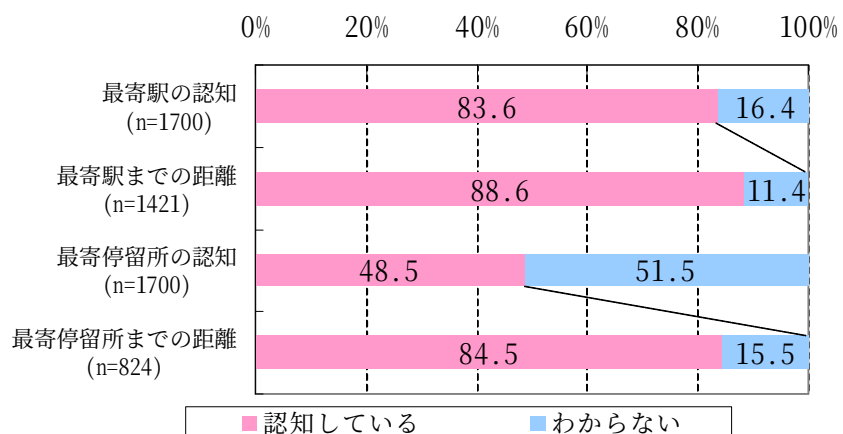


最寄駅、最寄停留所別認知状況



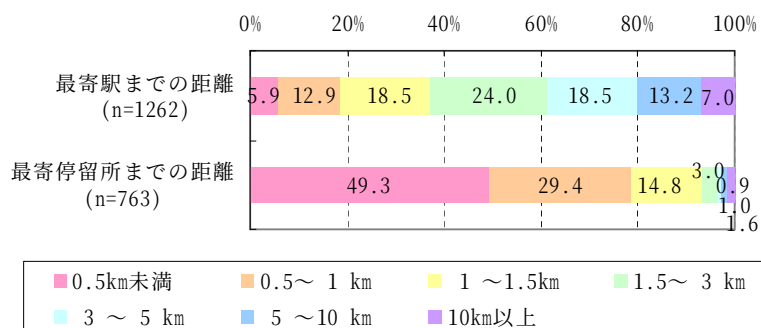
③ 最寄駅・最寄停留所までの距離の認知

- 最寄駅を認知している人のうち、駅までの距離を認知していない人が 11.4%。
- 最寄停留所を認知している人のうち、停留所までの距離を認知していない人が 15.5%。



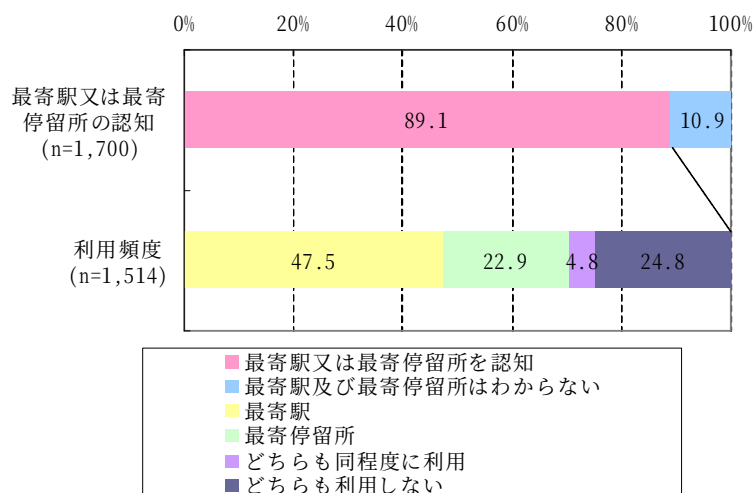
④ 最寄駅・最寄停留所までの距離

- 最寄駅までの距離は 3 km 以内で 6 割程度を占めている。
- 最寄停留所までの距離は 0.5km 未満が 49.3% と半数近くを占め、1 km 未満で 8 割弱となっている。



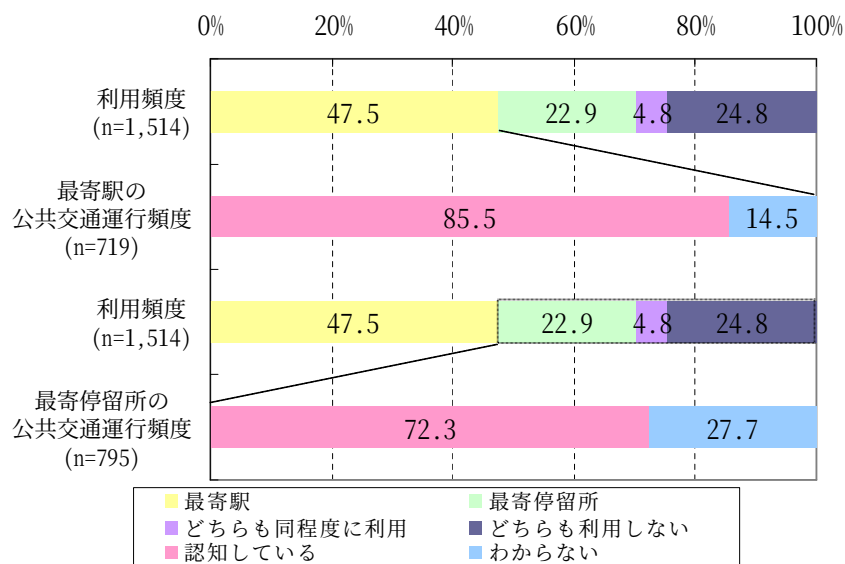
⑤ 最寄駅・最寄停留所のうち、利用頻度の高いもの

- 「最寄停留所」よりも「最寄駅」の方が利用頻度が高く 47.5%と半分近くを占める。
- 「どちらも利用しない」と回答した人は 24.8%で、最寄駅・最寄停留所を認知している、そのうち 4人に1人程度は利用していない。



⑥ 最寄駅又は最寄停留所の公共交通運行頻度の認知

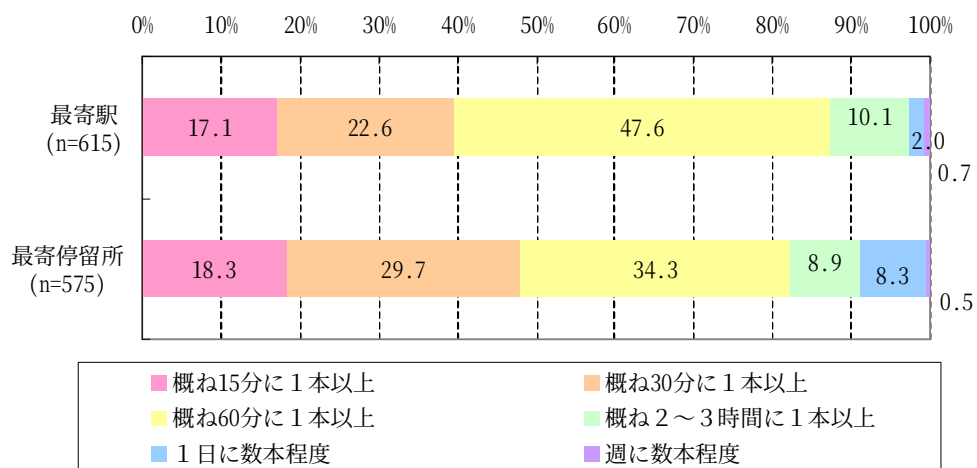
- 公共交通運行頻度の認知状況は、『最寄駅』で 85.5%、『最寄停留所』で 72.3%であった。



注) 最寄駅及び最寄停留所のうち、利用頻度の高い方について回答を求め、「同程度に利用」又は「どちらも利用しない」の場合は、最寄停留所について回答を求めた。

⑦ 最寄駅又は最寄停留所の公共交通運行頻度

- 「最寄駅」の運行頻度については、概ね30分に1本以上運行されているところが39.7%、1時間に1本以上では87.3%を占める。
- 「最寄停留所」では、概ね30分に1本以上運行されているところが48.0%、1時間に1本以上が82.3%となっている。



(4) 公共交通のサービス等に対する考え

- 最も満足度が高い項目は『安全性』で、最も低い項目は『ＩＣカードなどの支払いや切符購入の利便性』となった。
- 最も重要度が高い項目は『安全性』で、最も低い項目は『特色ある車両や車窓からの展望などの楽しみ』となった。
- 全国と比較すると、「重要度」が低い項目が多く、公共交通に頼らない居住者が多いことが推測される。「満足度」は、『公共交通が整備されていること』や『駅・停留所までの距離や立地』など、ネットワークやハード面での満足度が相対的に高く、情報提供などのソフト面の満足度が低い傾向にある。

① 満足状況（満足度）とサービス改善に対する意向（重要度）

- 満足度が低く「不満である」との回答が多い項目としては、『鉄道・バス等の本数』27.1%、『公共交通が整備されていること』24.0%、『鉄道・バス等の運賃』23.6%などである。

満足度及び重要度

項目	満足度 (東北)	重要度 (東北)	満足度 (全国)	重要度 (全国)
公共交通が整備されていること	2.60	0.61	2.51	0.77
駅や停留所までの距離や立地	3.07	0.55	2.80	0.75
鉄道・バス等の通る路線	2.71	0.55	2.59	0.72
鉄道・バス等の本数	2.36	0.59	2.28	0.74
鉄道・バス等の運賃	2.29	0.57	2.33	0.69
列車・車両等の混雑の度合い	2.86	0.37	2.80	0.49
目的地までの速さ・時間の正確性	2.96	0.60	3.03	0.66
安全性	3.36	0.69	3.36	0.75
始発や最終時刻の設定	2.45	0.54	2.49	0.55
駅や停留所等でのサービス(売店やATM等)	2.33	0.29	2.39	0.34
乗り換え・乗り継ぎの容易さ	2.38	0.52	2.48	0.58
ＩＣカードなどの支払いや切符購入の利便性	2.13	0.32	2.43	0.35
バリアフリー化(段差がないことなど)	2.20	0.38	2.27	0.45
特色ある車両や車窓からの展望などの楽しみ	2.46	0.22	2.67	0.27
遅延やキャンセル等の際の情報提供や対応	2.16	0.42	2.21	0.41
案内板や電光掲示板などの情報の表示・提供	2.48	0.46	2.65	0.49
携帯電話やインターネットなどの情報表示・提供	2.33	0.41	2.48	0.42

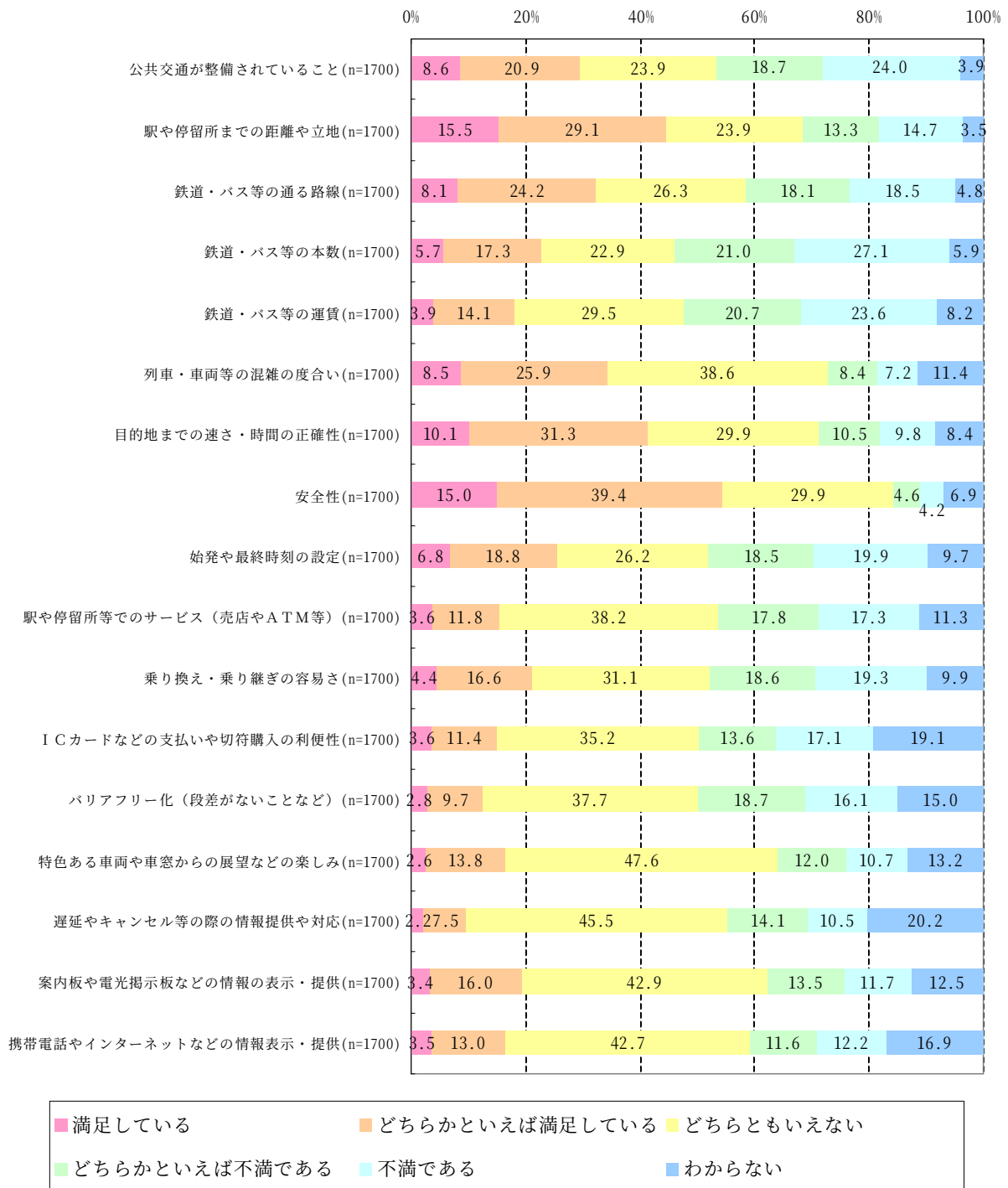
赤字は全国に比べて東北の方がスコアが高い項目。青字は全国に比べて東北の方がスコアが低い項目。

注) 満足度は、「満足」：5、「どちらかと言えば満足」：4、「どちらともいえない」：3、「どちらかと言えば不満」：2、「不満」：1として満足度スコアを算出。

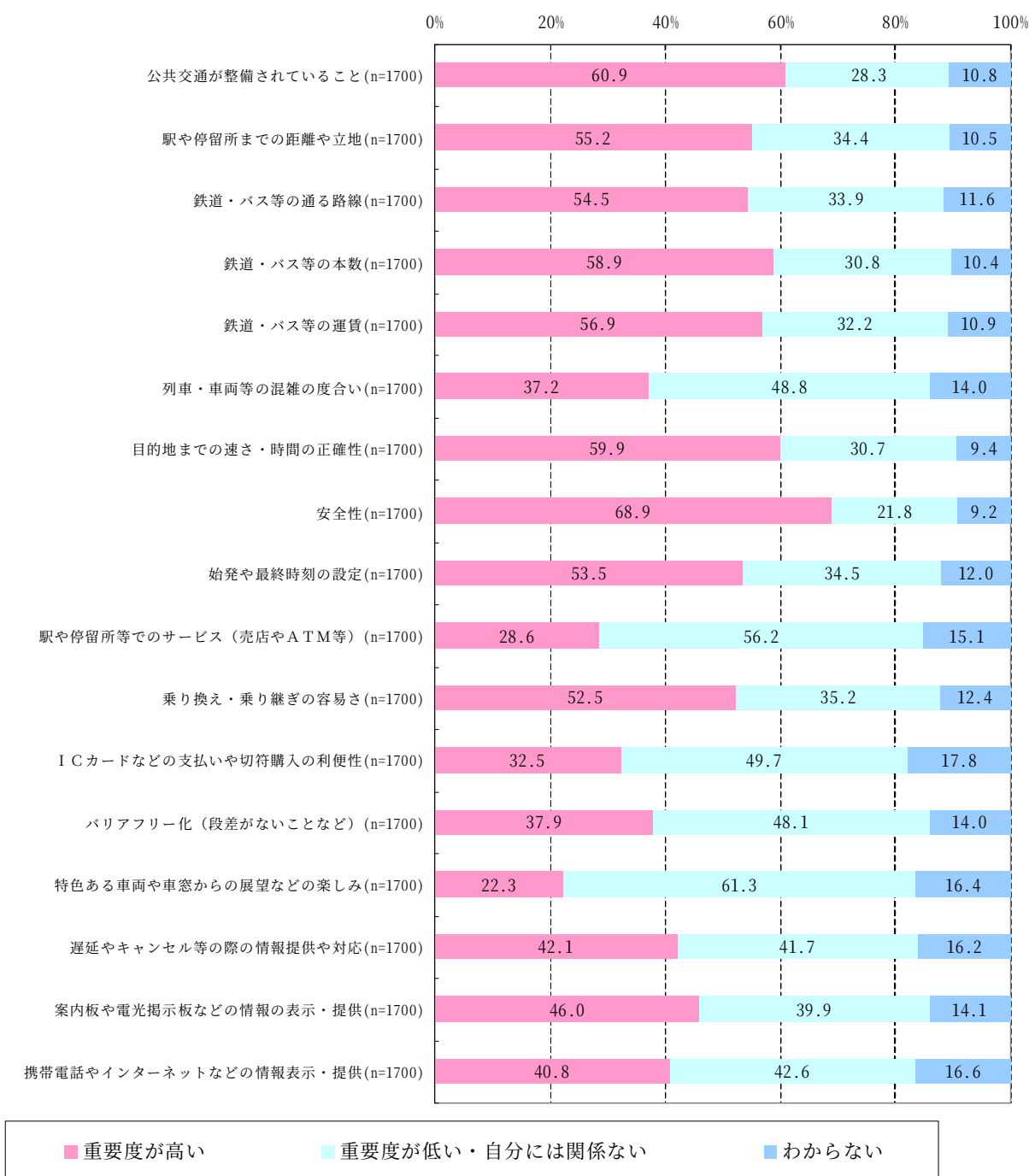
重要度は、「重要」：1、「重要度が低い・自分には関係ない」：0として重要度スコアを算出。

(資料) 全国のスコアは、「平成 20 年度国土交通白書」より作成

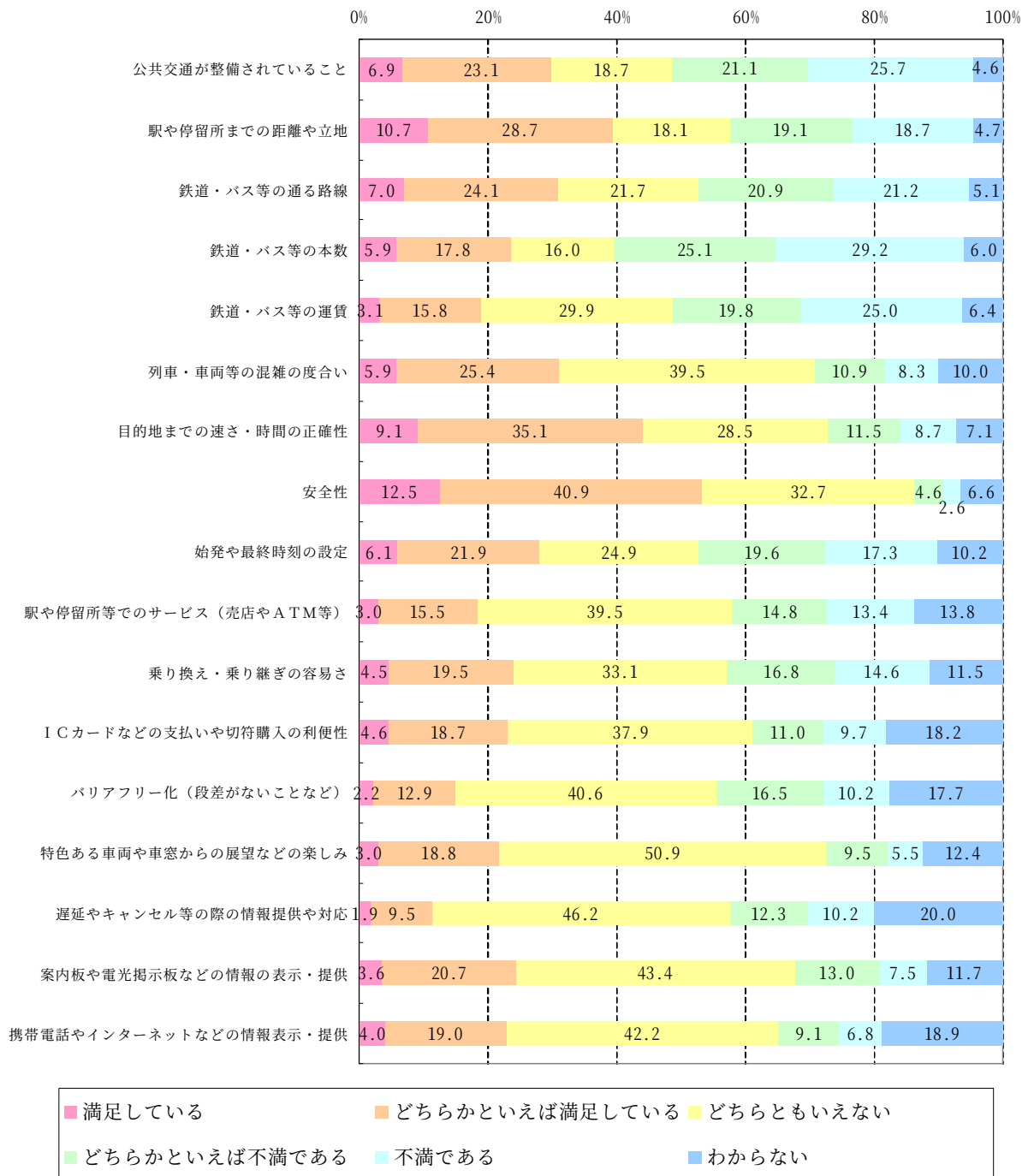
満足状況



サービス改善に対する意向（重要度）



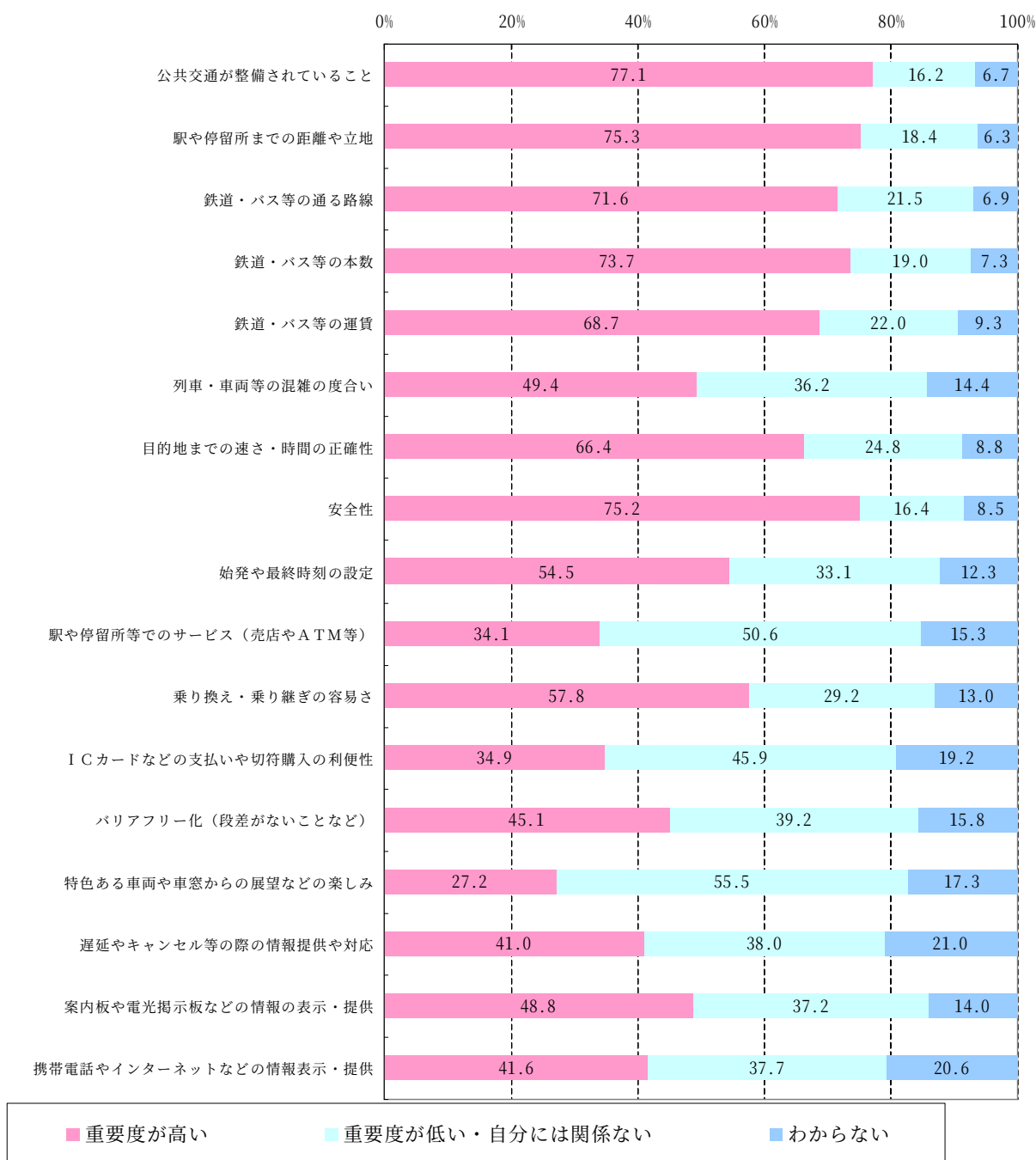
【参考】満足状況（平成 20 年度国土交通白書における地方圏の公共交通機関に対する満足度）



（資料）「平成 20 年度国土交通白書」より作成

【参考】サービス改善に対する意向

(平成 20 年度国土交通白書における地方圏の公共交通機関に対する重要度)



(資料)「平成 20 年度国土交通白書」より作成

② 公共交通に対する総合的な評価

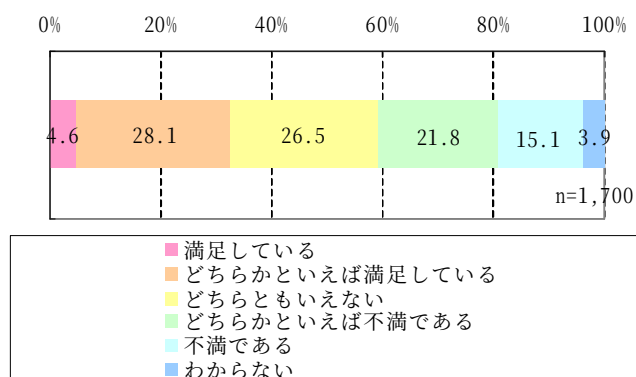
- 総合的な満足度は 2.74、重要度は 0.50。
- サンプルベースでの集計結果からは、回答者自身の重要度と回答者の家族の重要度とはあまり差が見られない。

項目	満足度	回答者の重要度	回答者家族の重要度
総合的な評価	2.74	0.50	0.47

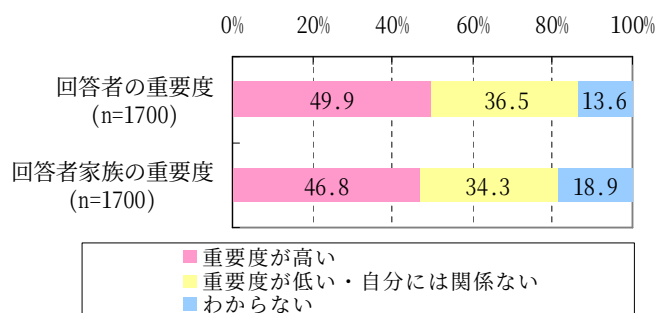
注) 満足度は、「満足」：5、「どちらかと言えば満足」：4、「どちらともいえない」：3、「どちらかと言えば不満」：2、「不満」：1として満足度スコア算出。

重要度は、「重要」：1、「重要度が低い・自分には関係ない」：0として重要度スコア算出。

公共交通に対する総合的な満足度



回答者にとっての公共交通のサービス改善に対する意向（回答者の重要度）と
回答者家族にとっての公共交通のサービス改善に対する意向（回答者家族の重要度）

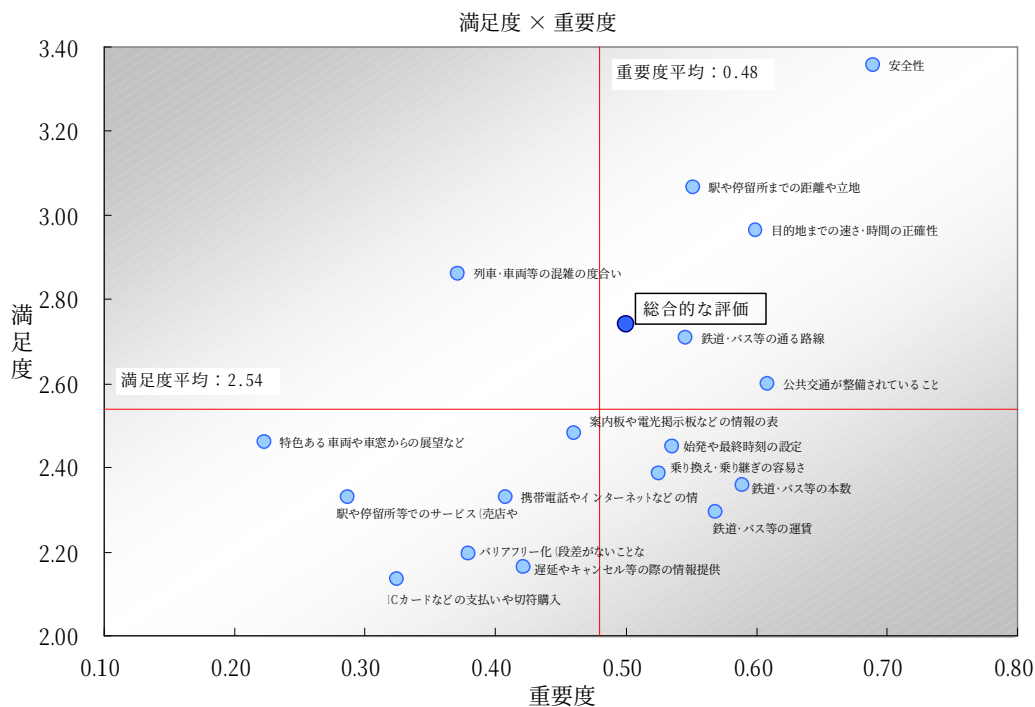


③ 公共交通サービスに対する満足と重要度

○ 各項目の満足度・重要度の平均値と比較すると、満足度が低く重要度が高い項目（＝要改善項目）は、『鉄道・バス等の本数』、『鉄道・バス等の運賃』、『乗り換え・乗り継ぎの容易さ』、『始発や最終時刻の設定』などである。

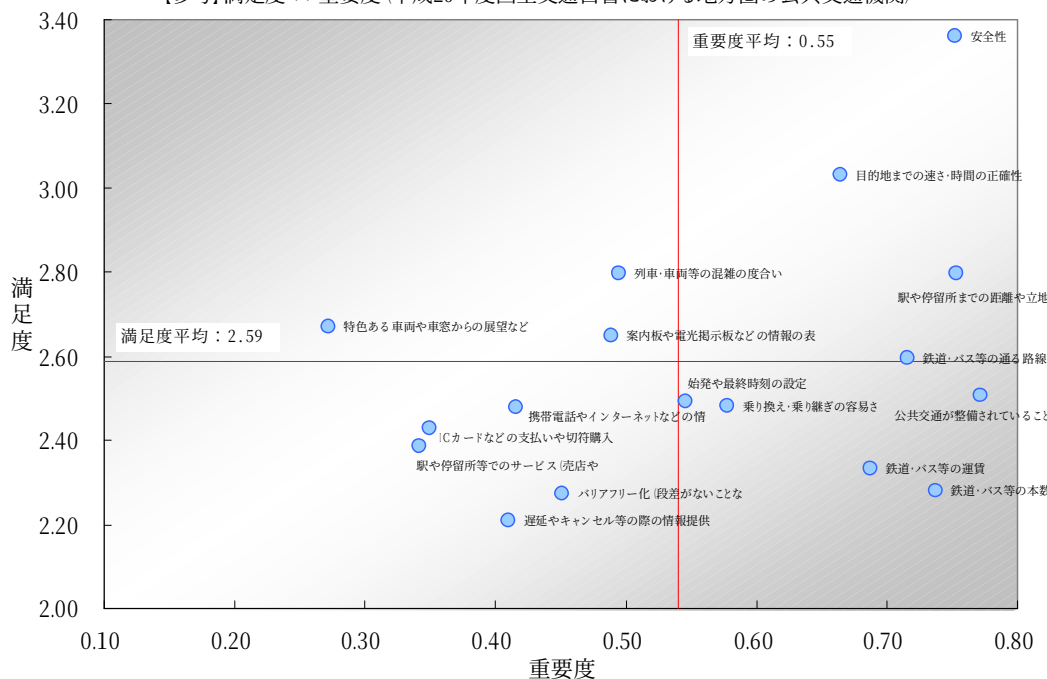
○ 満足度及び重要度が最も高いのは『安全性』。

【東北】



【全国】

【参考】満足度 × 重要度 (平成20年度国土交通白書における地方圏の公共交通機関)



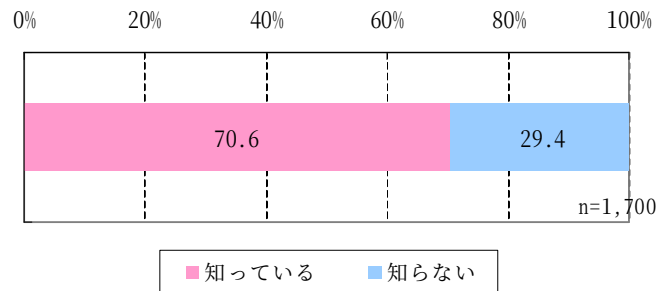
(資料)「平成 20 年度国土交通白書」より作成

(5) 公共交通機関の維持・確保に対する考え

- 公共交通の維持・確保が困難な状況にあることは回答者の 70.6%が認知している。
- また、公共交通機関の必要性を感じているのは 96.1%である。
- 公共交通機関の維持・確保に向けて、63.3%の人が取り組み可能なことがあると認識しているが、「積極的な利用」意向が最も高く、その他の活動への参加等は少ない。
- また、実際に実践している人が少ないほか、「公共交通の維持・確保は事業者や行政が責任を持って取り組むべきと考えている」と回答した人が多く 39.6%を占める。

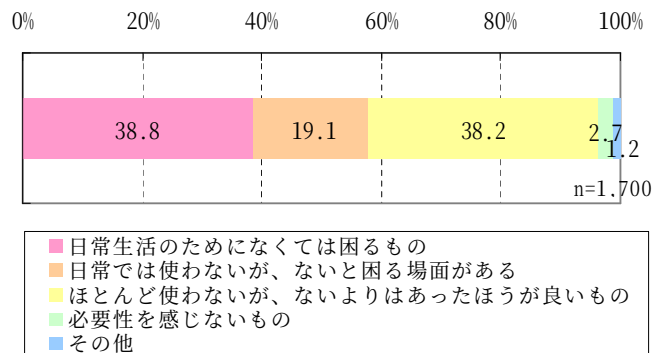
① 公共交通機関の維持・確保が困難な状況にあることの認知・不認知

- 公共交通の維持・確保が困難な状況にあることは、70.6%が認知している。



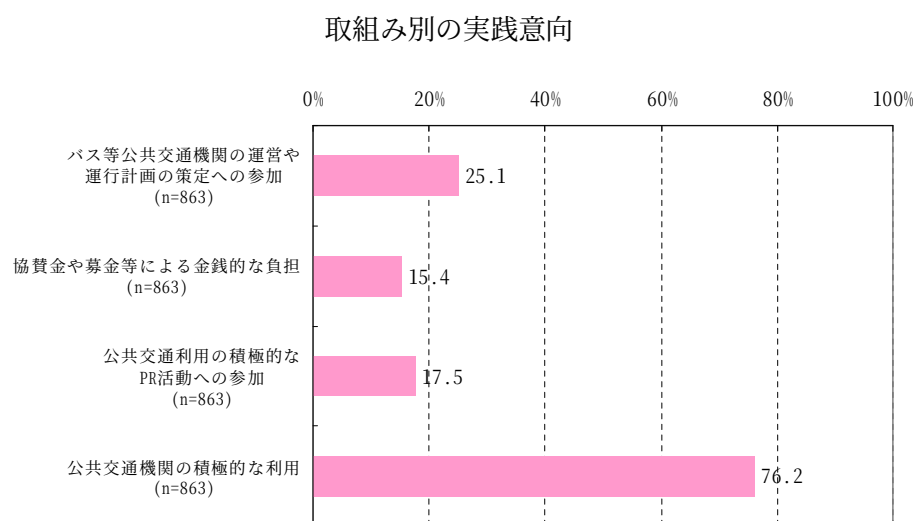
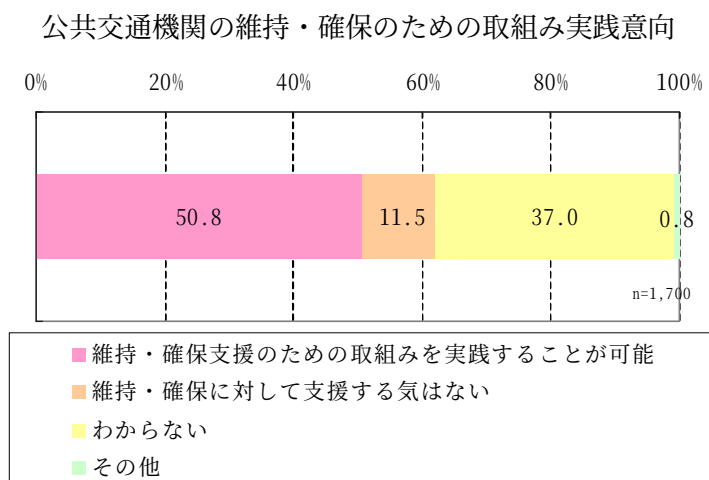
② 公共交通機関の必要性

- 『日常生活のためにはなくては困るもの』と回答した人が4割弱を占め、実際の利用状況と乖離が見られる。
- また、『日常では使わないが、ないと困る場面がある』と回答した人が2割弱いる。
- 一方で、『必要性を感じない』と回答した人は 2.7%にとどまり、多くの人は必要性を感じている。



③ 公共交通機関の維持・確保のためにできること

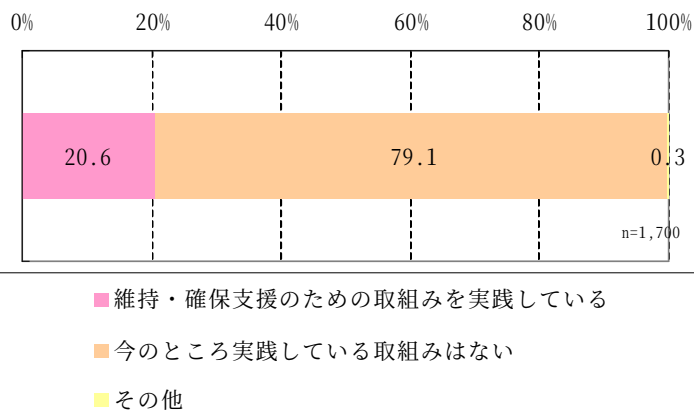
○ 維持・確保のために何かしらの取組みが実践できるとの回答が 50.8%を占め、中でも「公共交通機関の積極的な利用」を実践可能とした回答が 38.7%と最も多い。



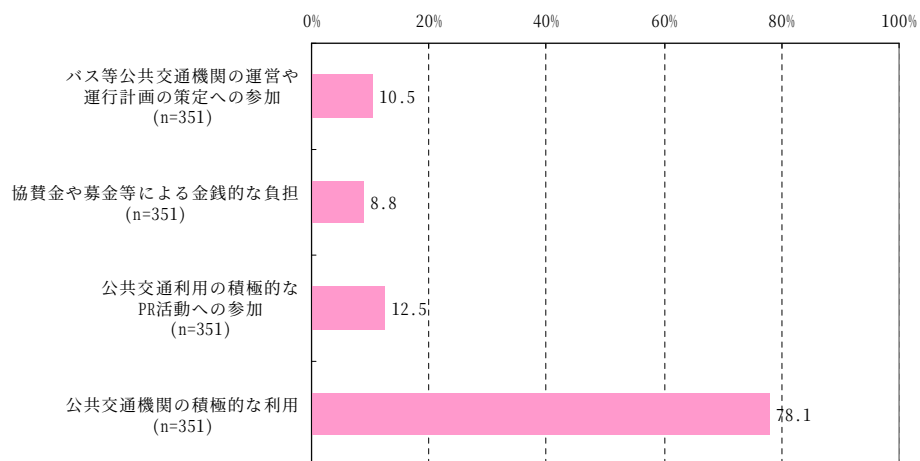
④ 公共交通機関の維持・確保のために実践していること

- 「今のところ実践している取組みはない」が最も多く 79.1%。
 ○ 実践されている取組みの中で最も多いのが、「公共交通の積極的な利用」で、16.1%

公共交通機関の維持・確保のための取組み実践状況

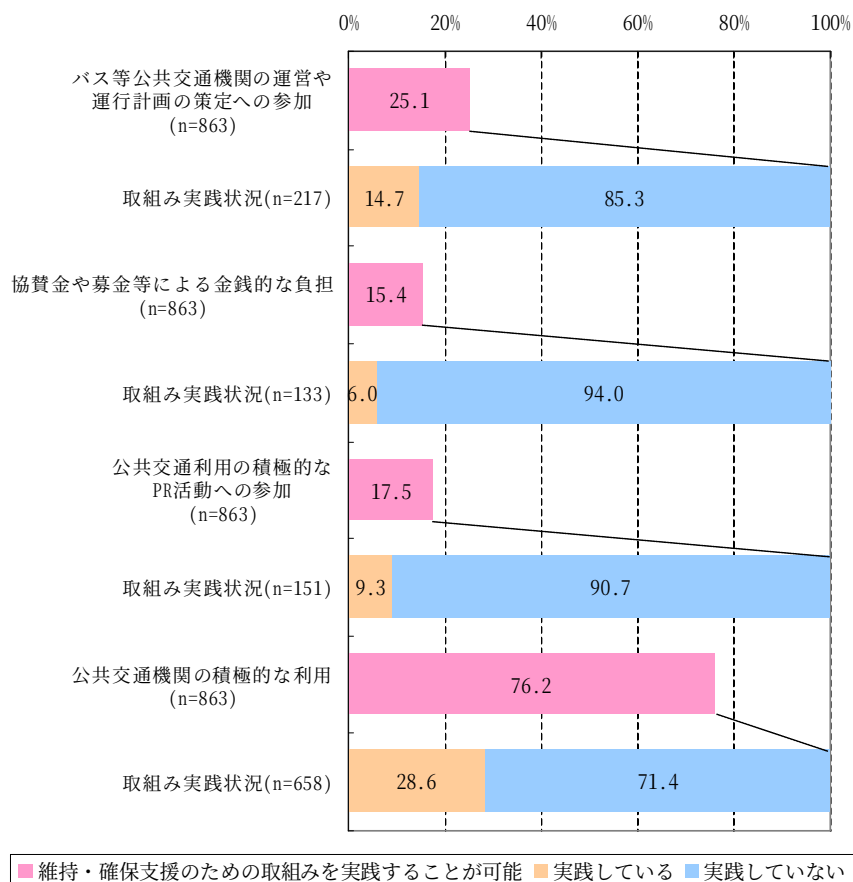


取組み別の実践状況



⑤ 公共交通機関の維持・確保のための取組み意向と取組み実践状況

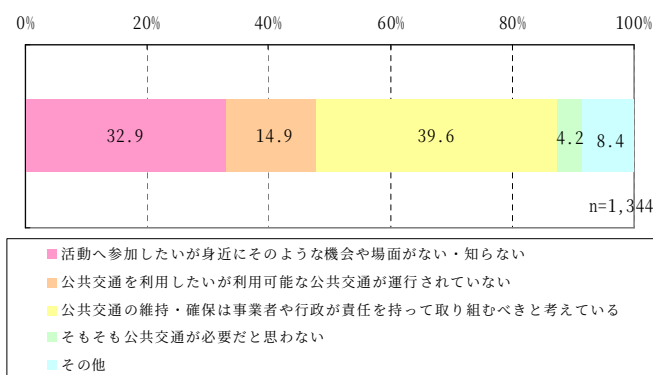
○ 取組み意向の最も高い『公共交通の積極的な利用』でも、実践している人は3割弱にとどまる。



⑥ 公共交通機関の維持・確保のために実践していることがない理由

○ 「活動へ参加したいが身近にそのような機会や場面がない・知らない」、「公共交通を利用したいが利用可能な公共交通が運行されていない」と回答した維持・確保に向けた活動への参加意向があると考えられる人があわせて47.8%。

○ 一方で、行政や事業者が責任を持って取組むべきとの回答が最も多く39.6%。



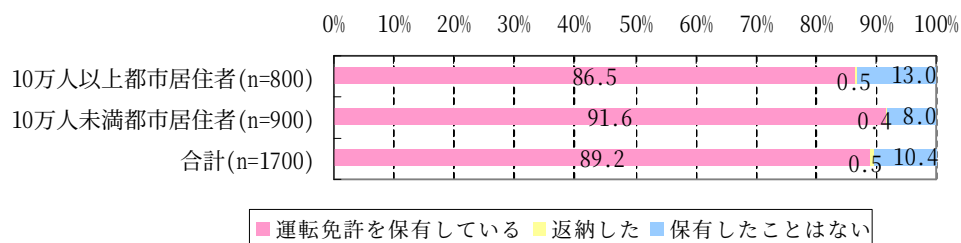
注) 取組み実践意向の有無に関わらず、問5(4)(公共交通機関の維持・確保のために実践していること)において、「今のところ実践している取組みはない」と回答した方に回答を求めた。

3. 都市規模別集計（速報値：サンプルベース）

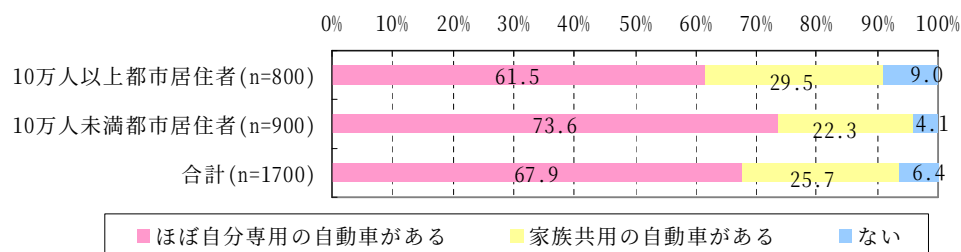
（1）回答者属性

「自動車免許の保有」及び「自動車保有率」は、『10万人未満都市居住者』の方が高い。

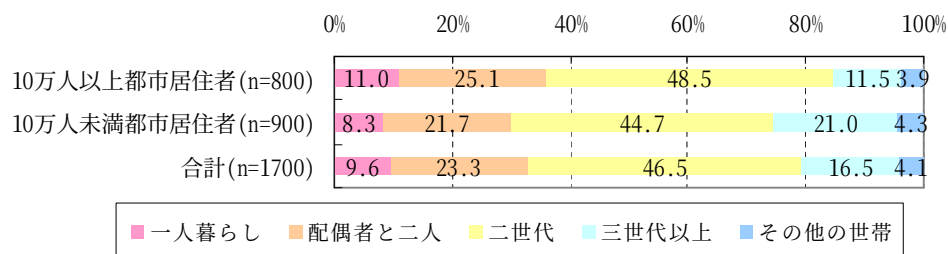
① 自動車免許の保有状況



② 世帯の自動車保有状況



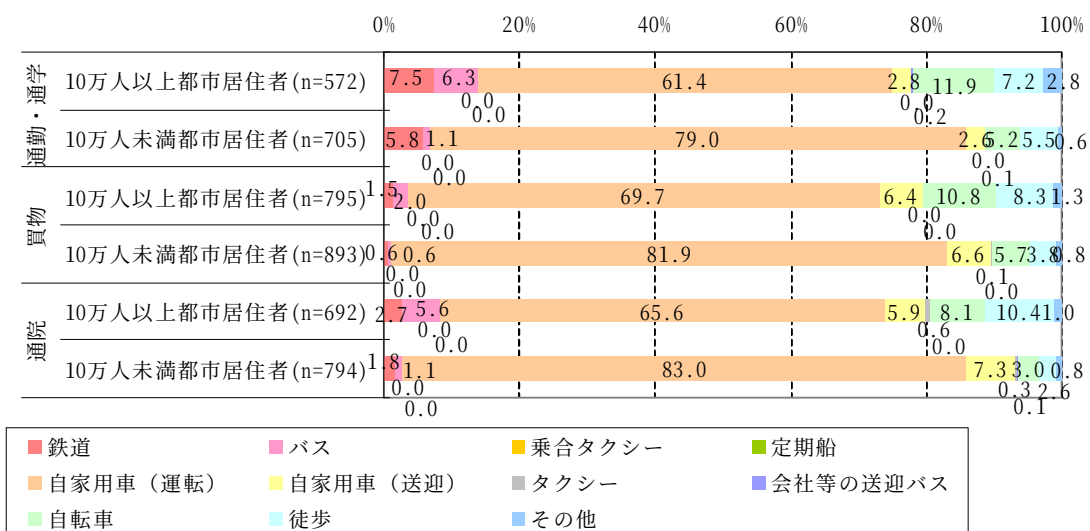
③ 家族構成



(2) 普段の移動実態

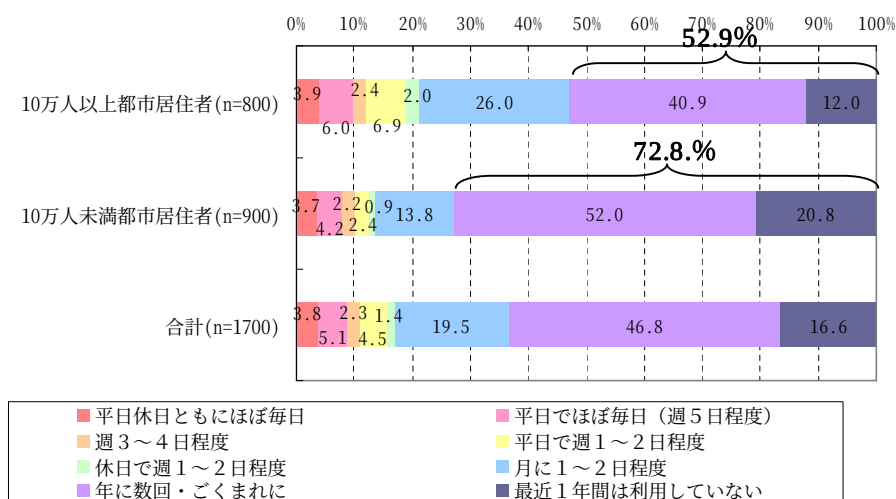
① 主に利用する交通手段

○ 全ての目的において、『10 万人未満都市居住者』の「自家用車（運転）」の占める割合が上回っている。



② 公共交通の利用状況

○ 「最近1年間は利用していない」とあわせて、定期的に公共交通利用を利用する習慣がないと考えられる回答者は、『10 万人以上都市居住者』52.9%、『10 万人未満都市居住者』72.8%であり、『10 万人未満都市居住者』が上回っている。

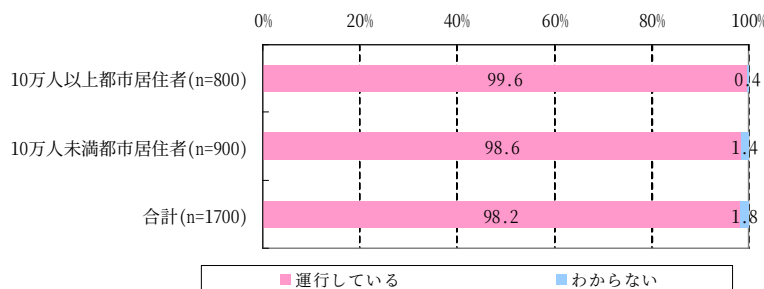


(3) 居住市区町村の状況

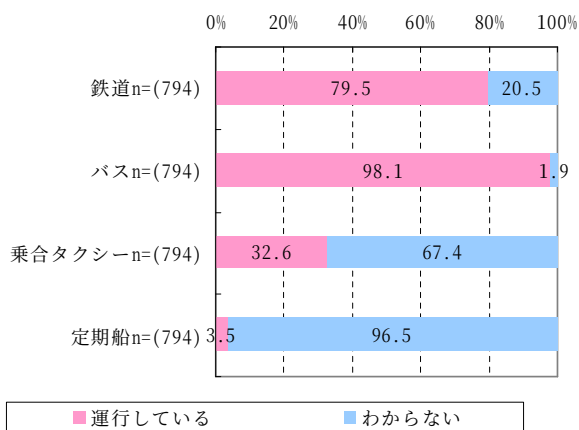
① 居住市区町村において運行されている公共交通

- 居住地域内を運行している公共交通機関を「わからない」と回答した人は『10 万人以上都市居住者』0.4%、『10 万人未満都市居住者』1.4%。
- 『10 万人以上都市居住者』、『10 万人未満都市居住者』ともに、「バス」、「鉄道」、「乗合タクシー」、「定期船」の順に認知度が高い。

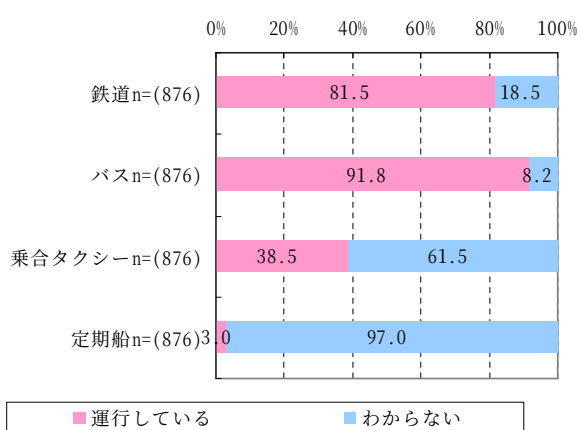
公共交通全体の運行認知状況



手段別公共交通運行認知状況 (10 万人以上都市)



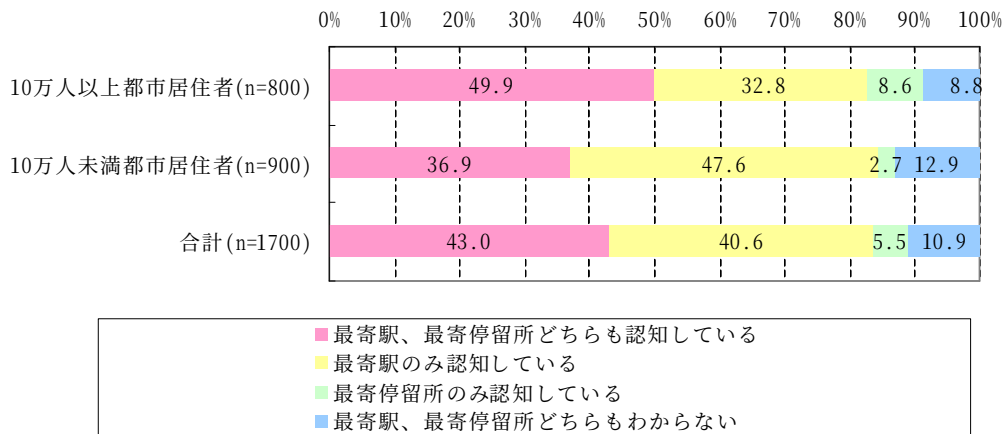
手段別公共交通運行認知状況 (10 万人未満都市)



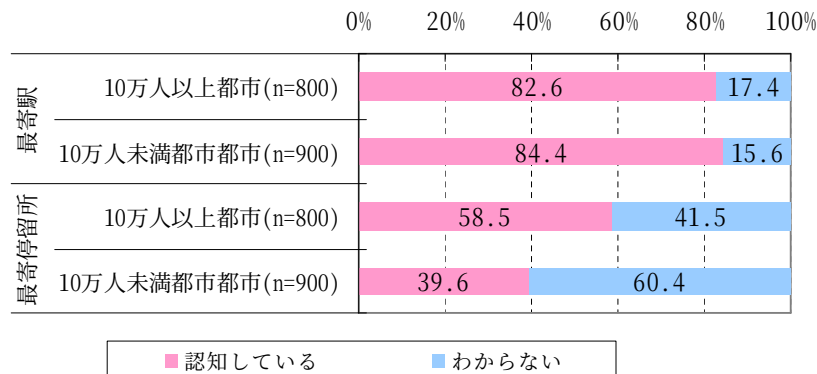
② 最寄駅・最寄停留所の認知

- 「最寄駅」、「最寄停留所」どちらもわからない」は、『10万人未満都市居住者』が、上回る。
- 『10万人以上都市居住者』及び『10万人未満都市居住者』のどちらも「最寄駅」の認知が、「最寄停留所」の認知を上回る。
- 「最寄駅」の認知度は、『10万人未満都市居住者』が上回る。

最寄駅・最寄停留所の認知状況



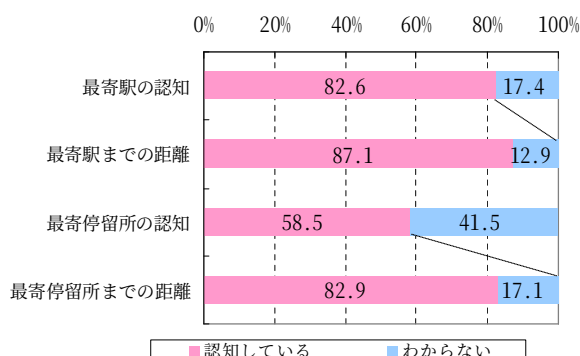
最寄駅、最寄停留所別認知状況



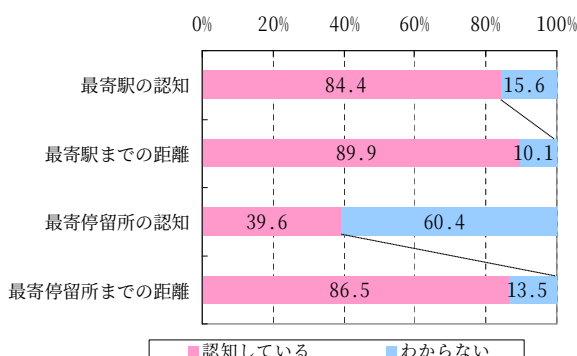
③ 最寄駅・最寄停留所までの距離の認知

○ 「最寄駅」及び「最寄停留所」を認知している人のうち、『10 万人以上都市居住者』、『10 万人未満都市居住者』において、「最寄駅までの距離」、「最寄停留所までの距離」の認知に大きな差はみられず、8 割以上の人々が距離を認知している。

最寄駅・最寄停留所までの距離の認知
(10 万人以上都市)



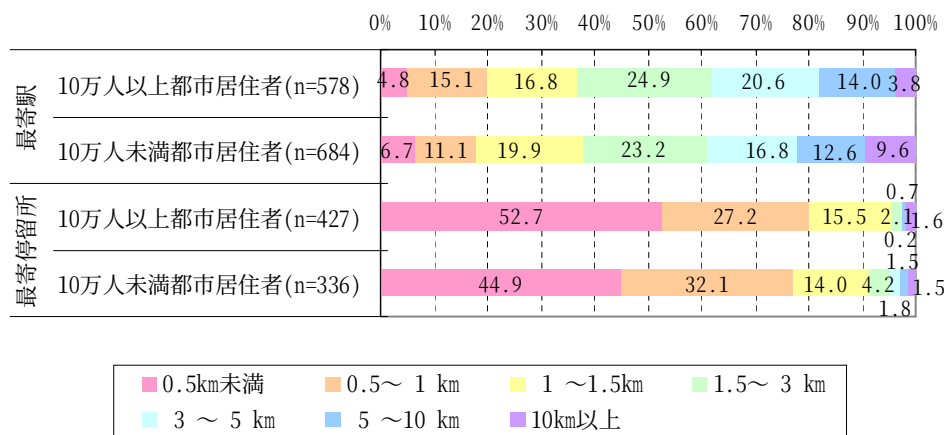
最寄駅・最寄停留所までの距離の認知
(10 万人未満都市)



④ 最寄駅・最寄停留所までの距離

○ 最寄駅までの距離は『10 万人以上都市居住者』、『10 万人未満都市居住者』で大きな差はみられない。

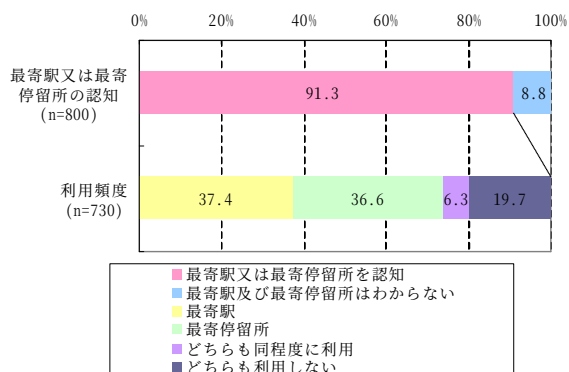
○ 最寄停留所までの距離は「0.5km」では『10 万人以上都市居住者』が上回るが、「1 km 未満」では大きな差はみられない。



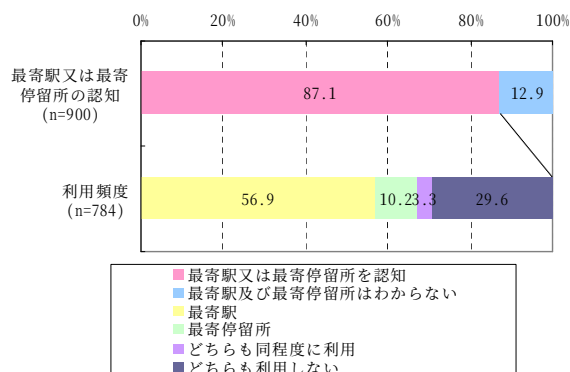
⑤ 最寄駅・最寄停留所のうち、利用頻度の高いもの

- 『10万人以上都市居住者』では、「最寄駅」「最寄停留所」間で利用頻度の差は小さい。
- 「どちらも利用しない」と回答した人は『10万人未満都市居住者』が上回っている。

最寄駅・最寄停留所のうち、利用頻度の高いもの
(10万人以上都市)



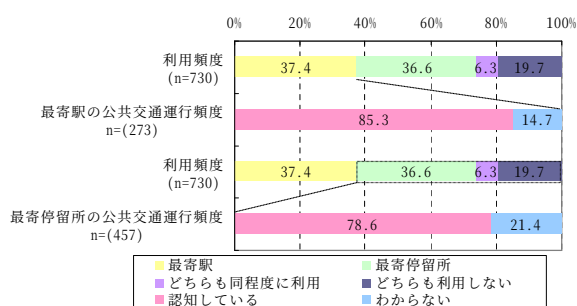
最寄駅・最寄停留所のうち、利用頻度の高いもの
(10万人未満都市)



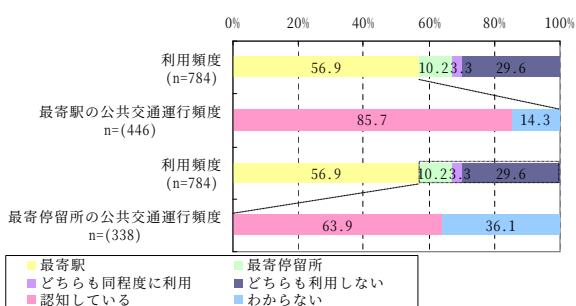
⑥ 最寄駅又は最寄停留所の公共交通運行頻度の認知

- 「最寄駅」に比べて「最寄停留所」では、「公共交通運行頻度」の認知度に『10万人以上都市居住者』と『10万人未満都市居住者』とで差が大きく、『10万人未満都市居住者』では、バスの運行頻度認知度が低い。

最寄駅又は最寄停留所の公共交通運行頻度の認知
(10万人以上都市)



最寄駅又は最寄停留所の公共交通運行頻度の認知
(10万人未満都市)

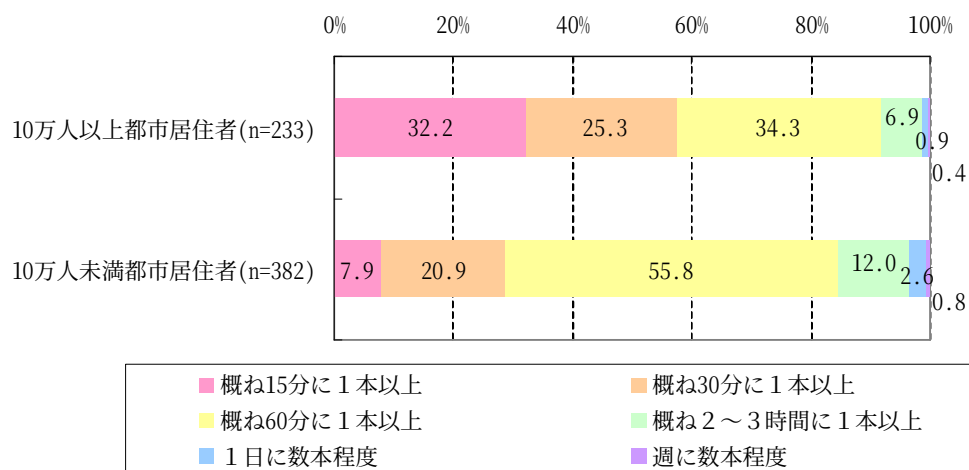


注) 最寄駅及び最寄停留所のうち、利用頻度の高い方について回答を求め、「同程度に利用」又は「どちらも利用しない」の場合は、最寄停留所について回答を求めた。

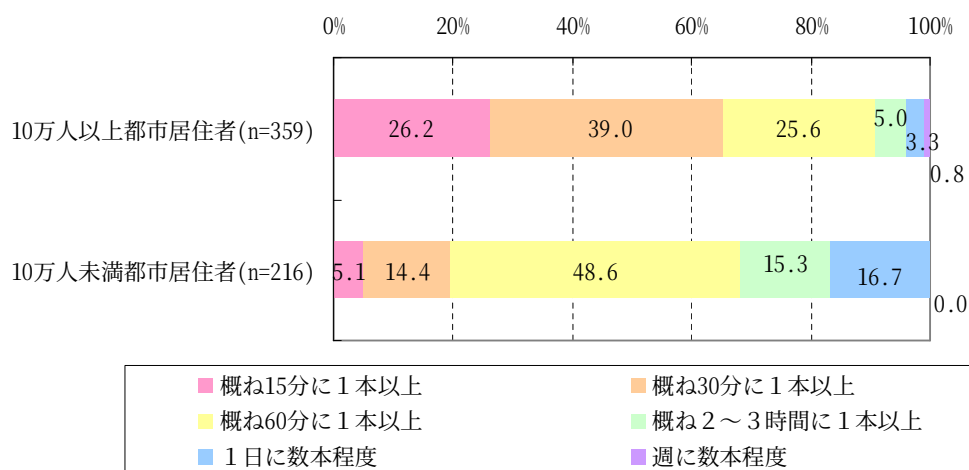
⑦ 最寄駅又は最寄停留所の公共交通運行頻度

○ 「最寄駅」、「最寄停留所」ともに、『10万人以上都市居住者』の運行頻度が上回っている。

最寄駅の公共交通運行頻度



最寄停留所の公共交通運行頻度



(4) 公共交通のサービス等に対する考え

- 『10 万人以上都市居住者』、『10 万人未満都市居住者』ともに、最も満足度が高い項目は『安全性』で、最も低い項目は『ＩＣカードなどの支払いや切符購入の利便性』であった。
- 最も重要度が高い項目は『安全性』で、最も低い項目は『特色ある車両や車窓からの展望などの楽しみ』となり、『10 万人以上都市居住者』、『10 万人未満都市居住者』ともに同じ傾向であった。
- 「満足度」は、全ての項目において『10 万人以上都市居住者』が上回る。
- 「重要度」も、ほとんどの項目で『10 万人以上都市居住者』が上回り、『10 万人未満都市居住者』は公共交通に対して「満足」及び「重要性」どちらも低い。

① 満足状況（満足度）とサービス改善に対する意向（重要度）

- 満足度が低く「不満である」との回答が多い項目としては、『鉄道・バス等の本数』、『公共交通が整備されていること』、『鉄道・バス等の運賃』などである。

満足度及び重要度

項目	10 万人以上都市		10 万人未満都市	
	満足度	重要度	満足度	重要度
公共交通が整備されていること	2.96	0.67	2.27	0.55
駅や停留所までの距離や立地	3.37	0.63	2.80	0.48
鉄道・バス等の通る路線	2.97	0.60	2.48	0.50
鉄道・バス等の本数	2.71	0.64	2.05	0.54
鉄道・バス等の運賃	2.50	0.64	2.12	0.51
列車・車両等の混雑の度合い	2.98	0.43	2.75	0.32
目的地までの速さ・時間の正確性	3.13	0.66	2.82	0.55
安全性	3.44	0.73	3.28	0.66
始発や最終時刻の設定	2.67	0.55	2.25	0.53
駅や停留所等でのサービス（売店やATM等）	2.52	0.29	2.16	0.29
乗り換え・乗り継ぎの容易さ	2.60	0.56	2.20	0.50
ＩＣカードなどの支払いや切符購入の利便性	2.28	0.34	2.01	0.31
バリアフリー化（段差がないことなど）	2.34	0.39	2.06	0.37
特色ある車両や車窓からの展望などの楽しみ	2.49	0.20	2.43	0.24
遅延やキャンセル等の際の情報提供や対応	2.23	0.44	2.10	0.41
案内板や電光掲示板などの情報の表示・提供	2.64	0.50	2.34	0.42
携帯電話やインターネットなどの情報表示・提供	2.48	0.43	2.20	0.39

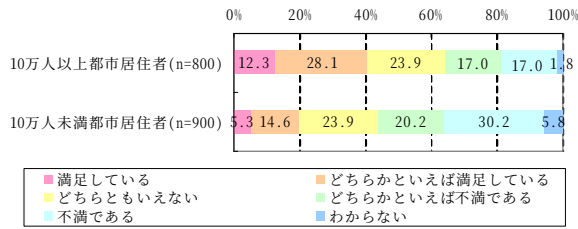
赤字は 10 万人未満都市に比べて 10 万人以上都市の方がスコアが高い項目。青字は 10 万人未満都市に比べて 10 万人以上都市の方がスコアが低い項目。

注) 満足度は、「満足」：5、「どちらかと言えば満足」：4、「どちらともいえない」：3、「どちらかと言えば不満」：2、「不満」：1として満足度スコアを算出。

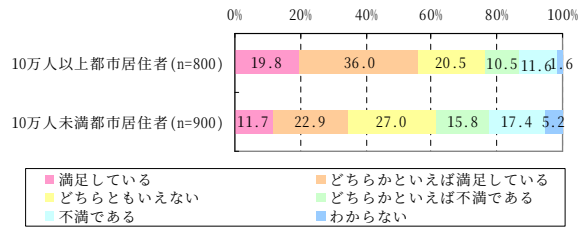
重要度は、「重要」：1、「重要度が低い・自分には関係ない」：0として重要度スコアを算出。

満足状況

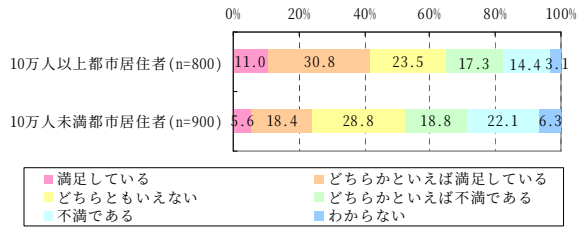
公共交通が整備されていること



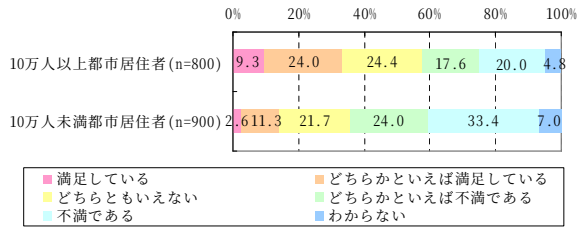
駅や停留所までの距離や立地



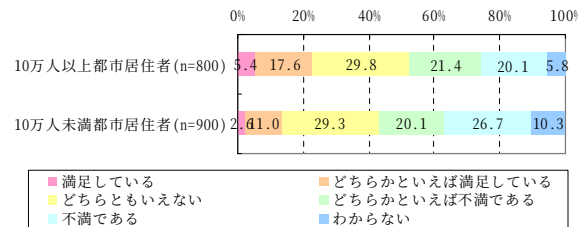
鉄道・バス等の通る路線



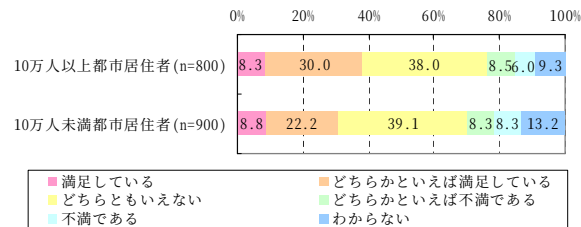
鉄道・バス等の本数



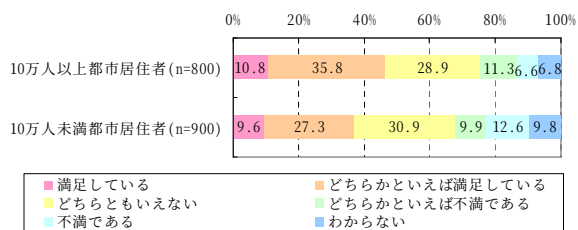
鉄道・バス等の運賃



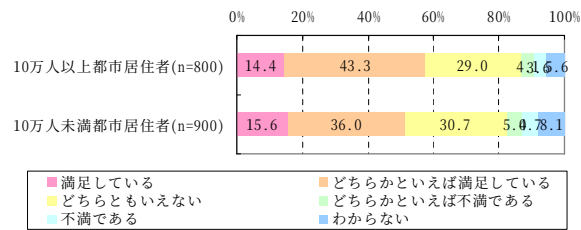
列車・車両等の混雑の度合い



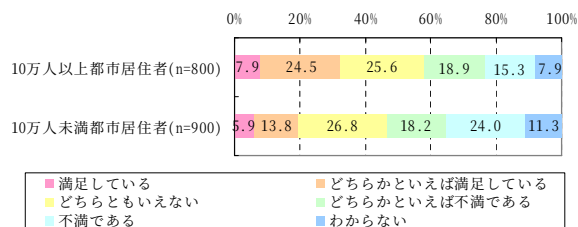
目的地までの速さ・時間の正確性



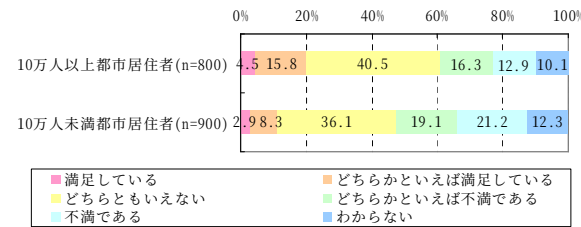
安全性



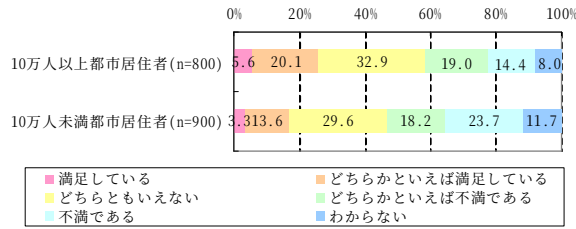
始発や最終時刻の設定



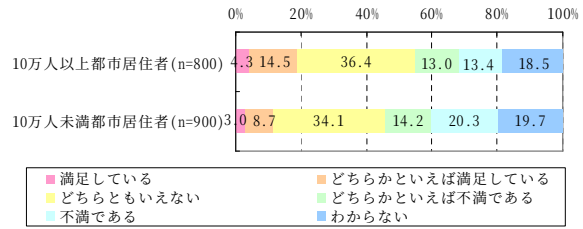
駅や停留所等でのサービス (売店やATM等)



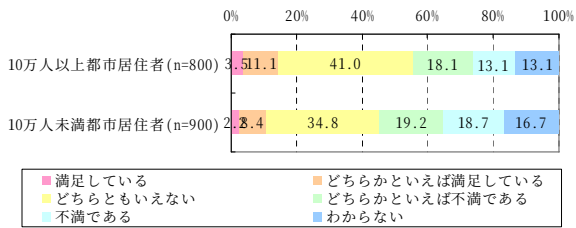
乗り換え・乗り継ぎの容易さ



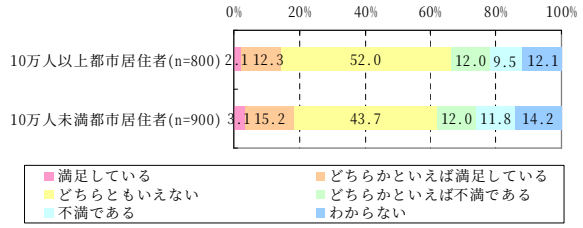
ICカードなどの支払いや切符購入の利便性



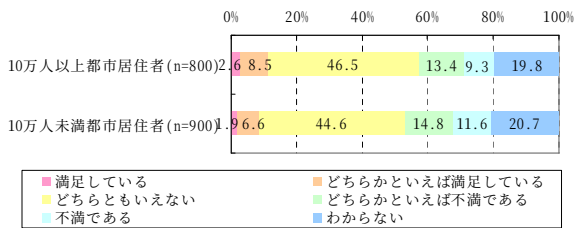
バリアフリー化 (段差がないことなど)



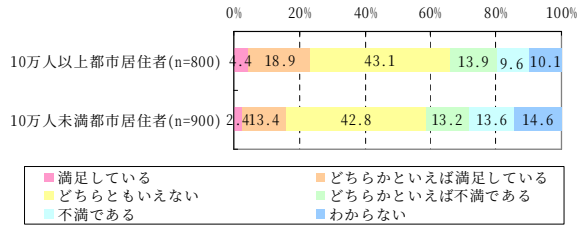
特色ある車両や車窓からの展望などの楽しみ



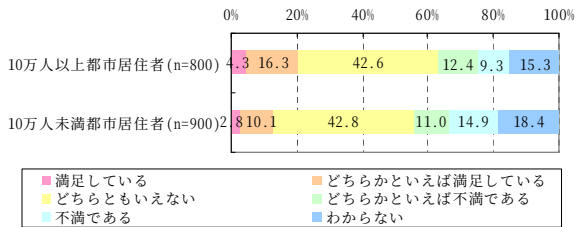
遅延やキャンセル等の際の情報提供や対応



案内板や電光掲示板などの情報の表示・提供

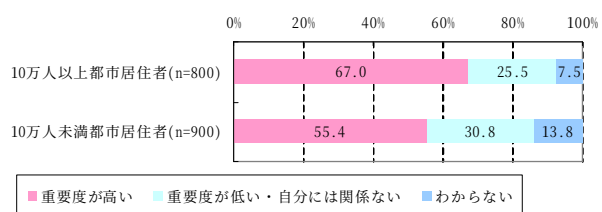


携帯電話やインターネットなどの情報表示・提供

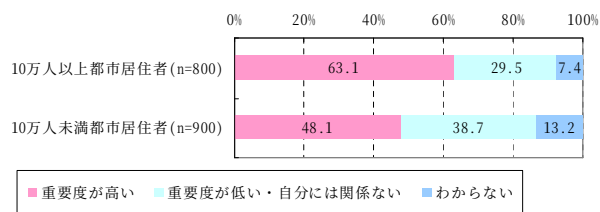


サービス改善に対する意向（重要度）

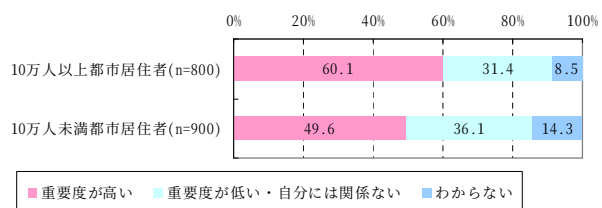
公共交通が整備されていること



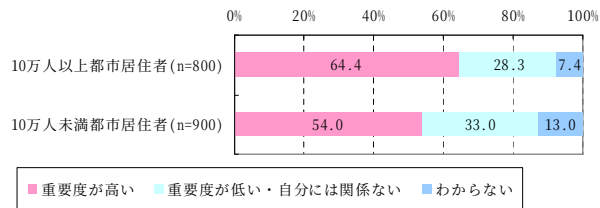
駅や停留所までの距離や立地



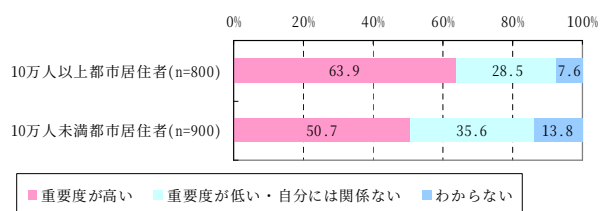
鉄道・バス等の通る路線



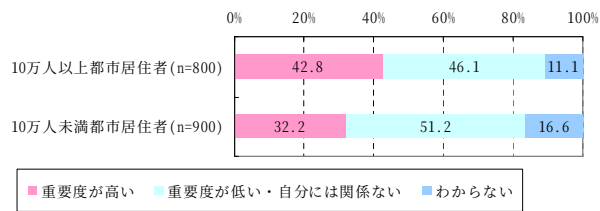
鉄道・バス等の本数



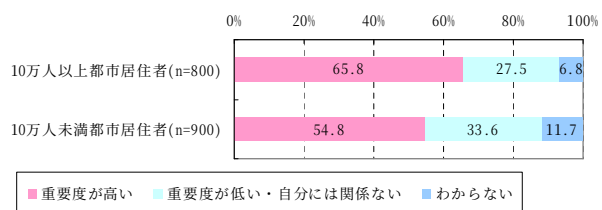
鉄道・バス等の運賃



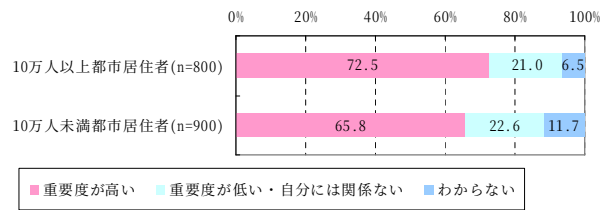
列車・車両等の混雑の度合い



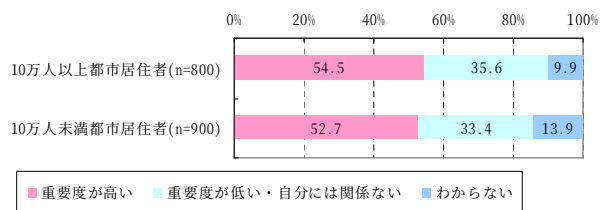
目的地までの速さ・時間の正確性



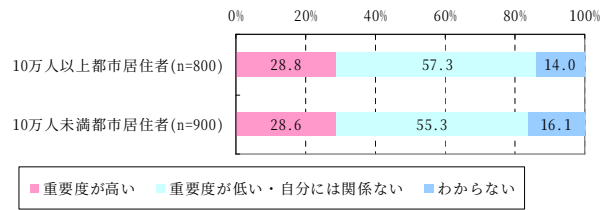
安全性



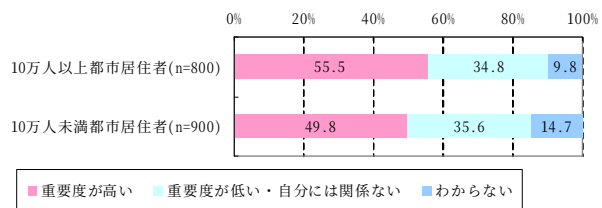
始発や最終時刻の設定



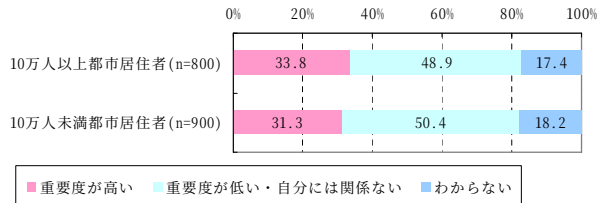
駅や停留所等でのサービス（売店やATM等）



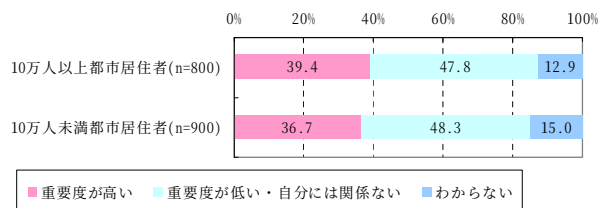
乗り換え・乗り継ぎの容易さ



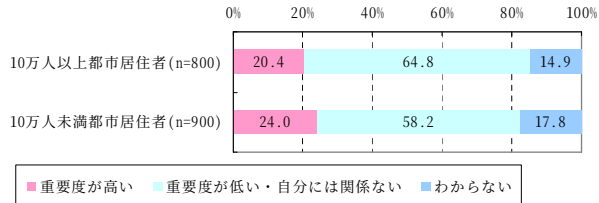
ICカードなどの支払いや切符購入の利便性



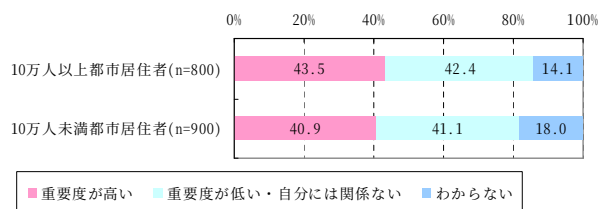
バリアフリー化 (段差がないことなど)



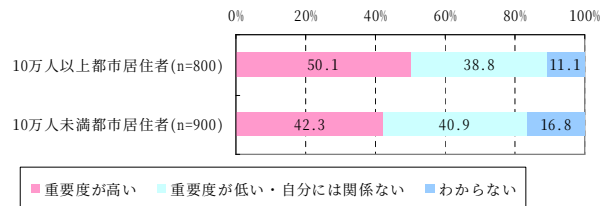
特色ある車両や車窓からの展望などの楽しみ



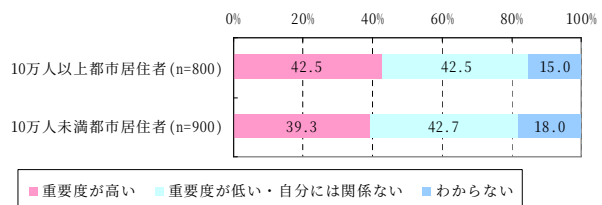
遅延やキャンセル等の際の情報提供や対応



案内板や電光掲示板などの情報の表示・提供



携帯電話やインターネットなどの情報表示・提供



② 公共交通に対する総合的な評価

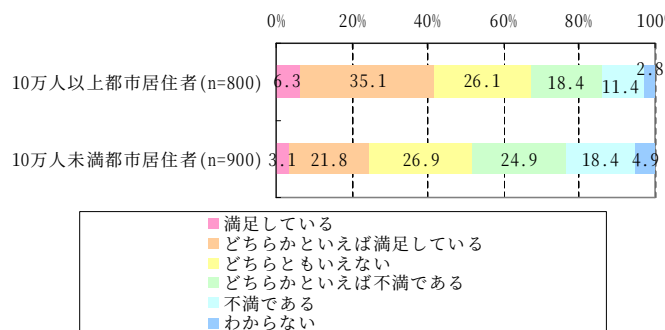
- 総合的な満足度は『10 万人以上都市居住者』2.98、『10 万人未満都市居住者』2.52、重要度はそれぞれ0.54、0.46。
- サンプルベースでの集計結果からは、回答者自身の重要度と回答者の家族の重要度とはあまり差が見られない。

項目	10 万人以上都市			10 万人未満都市		
	満足度	回答者の重要度	回答者家族の重要度	満足度	回答者の重要度	回答者家族の重要度
総合的な評価	2.98	0.54	0.50	2.52	0.46	0.44

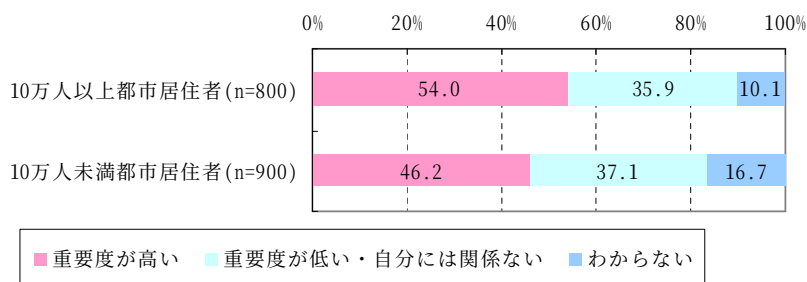
注) 満足度は、「満足」：5、「どちらかと言えば満足」：4、「どちらともいえない」：3、「どちらかと言えば不満」：2、「不満」：1として満足度スコア算出。

重要度は、「重要」：1、「重要度が低い・自分には関係ない」：0として重要度スコア算出。

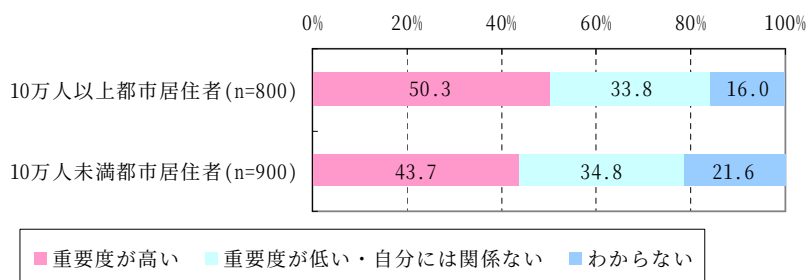
公共交通に対する総合的な満足度



回答者にとっての公共交通のサービス改善に対する意向（回答者の重要度）と



回答者家族にとっての公共交通のサービス改善に対する意向（回答者家族の重要度）



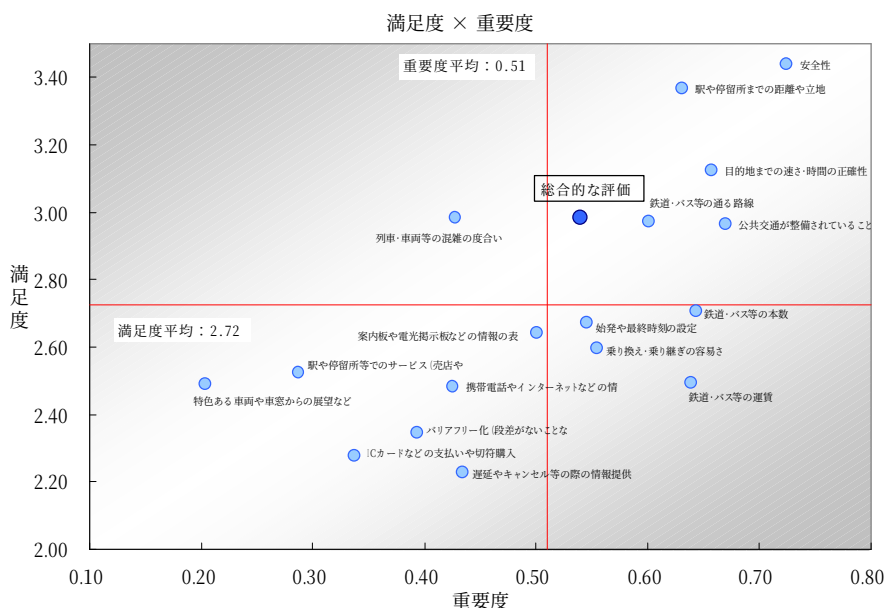
③ 公共交通サービスに対する満足と重要度

○ 各項目の満足度・重要度の平均値と比較すると、満足度が低く重要度が高い項目（＝要改善項目）は、以下の項目であった。

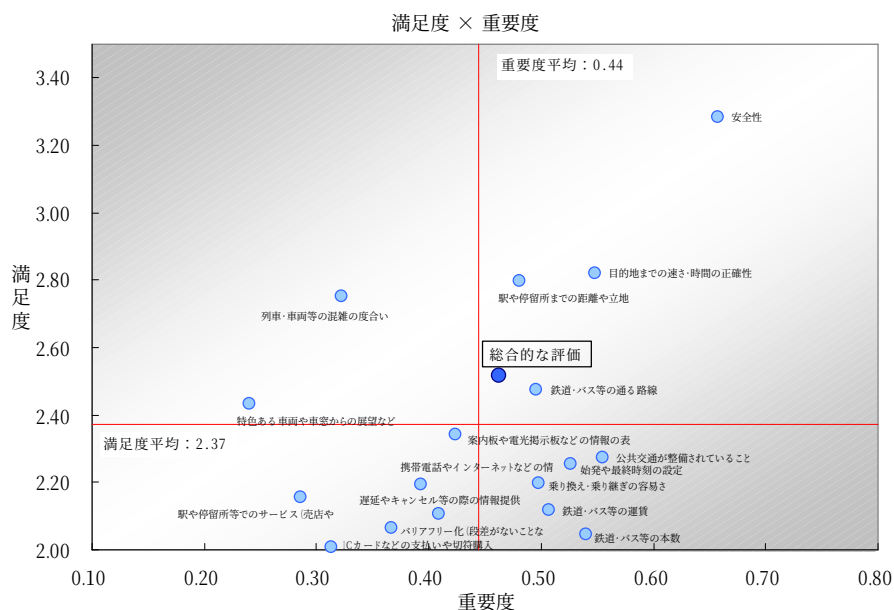
『10万人以上都市居住者』：『鉄道・バス等の運賃』、『乗り換え・乗り継ぎの容易さ』、『始発や最終時刻の設定』、『鉄道・バス等の本数』。

『10万人未満都市居住者』：『鉄道・バス等の本数』、『鉄道・バス等の運賃』、『乗り換え・乗り継ぎの容易さ』、『始発や最終時刻の設定』、『公共交通が整備されていること』

【10万人以上都市】



【10万人未満都市】

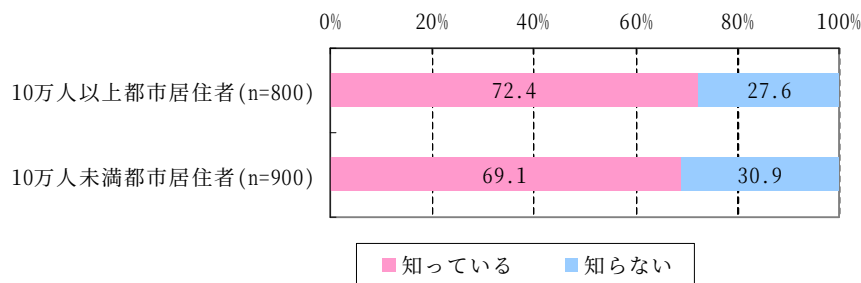


(5) 公共交通機関の維持・確保に対する考え

- 公共交通の維持・確保が困難な状況にあることの認知は、『10 万人以上都市居住者』が上回っている。
- また、公共交通機関の必要性を感じているのは『10 万人以上都市居住者』97.4%、『10 万人未満都市居住者』95.0%で、ほとんどの人が必要性を感じている。
- 公共交通機関の維持・確保に向けては、『10 万人以上都市居住者』の方が取組み可能なことがあると認識しているが、「積極的な利用」意向が最も高くその他の活動への参加等は少ないという傾向は、どちらの都市の居住者も同じ傾向である。
- また、実際に実践している人が少なく、「公共交通の維持・確保は事業者や行政が責任を持って取り組むべきと考えている」と回答した人がどちらの都市の居住者でも最も多い。

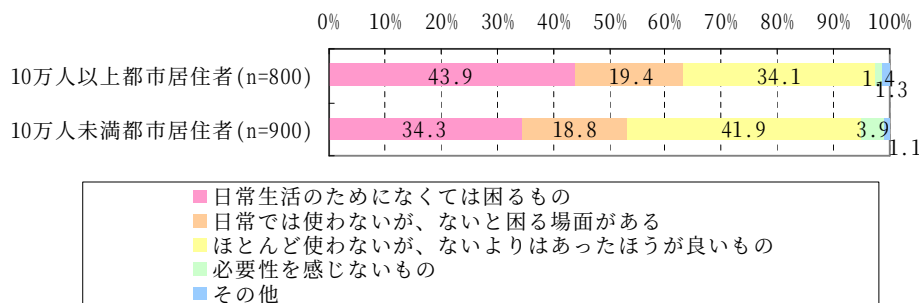
① 公共交通機関の維持・確保が困難な状況にあることの認知・不認知

- 公共交通の維持・確保が困難な状況にあることは、7 割程度が認知している。



② 公共交通機関の必要性

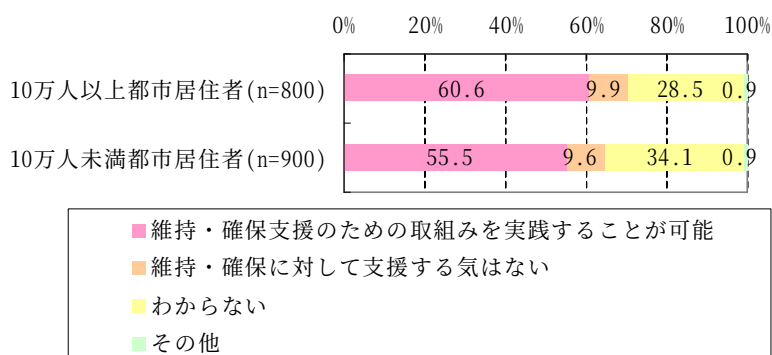
- 『日常生活のためになくっては困るもの』と回答した人が『10 万人以上都市居住者』、『10 万人未満都市居住者』ともに4割前後を占め、実際の利用状況より高い。
- 『日常生活のためになくっては困るもの』、『日常では使わないが、ないと困る場面がある』と回答した人は『10 万人以上都市居住者』の方が多い。
- 一方で、『必要性を感じない』と回答した人は『10 万人未満都市居住者』の方が高く、『10 万人未満都市居住者』は公共交通に依存していない層の存在が考えられる。



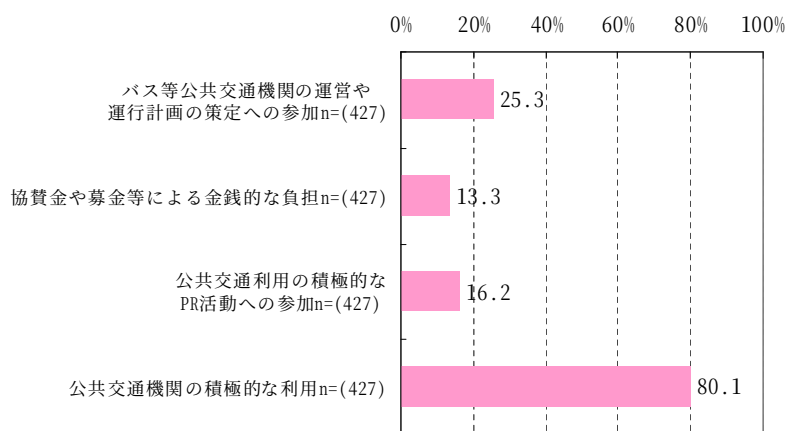
③ 公共交通機関の維持・確保のためにできること

- 維持・確保のために何かしらの取組みが実践できるとの回答は、『10万人以上都市居住者』の方が高い。
- 取組み別にみると、『10万人以上都市居住者』、『10万人未満都市居住者』で、意向の高さの順序は同じであるが、「金銭的な負担」、「公共交通利用の積極的なPR活動への参加」への取組み意向は、『10万人未満都市居住者』の方が高く、より積極的に取組みたい意向を持っている層の存在が考えられる。

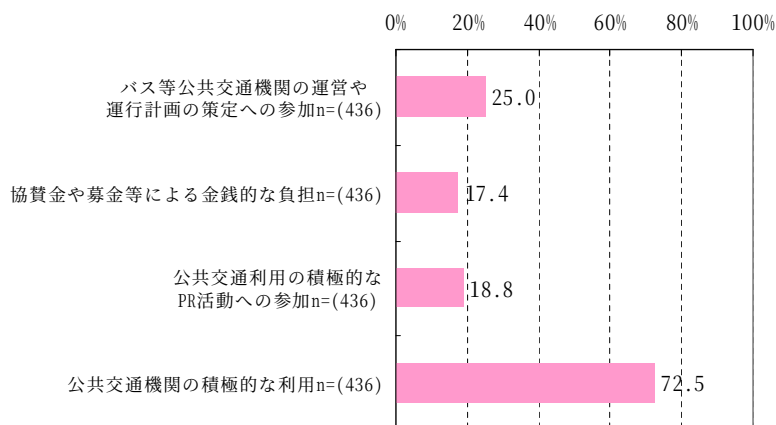
公共交通機関の維持・確保のための取組み実践意向



取組み別の実践意向（10万人以上都市）



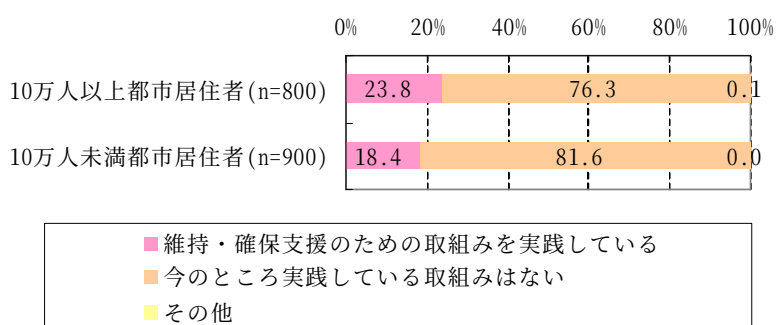
取組み別の実践意向（10万人未満都市）



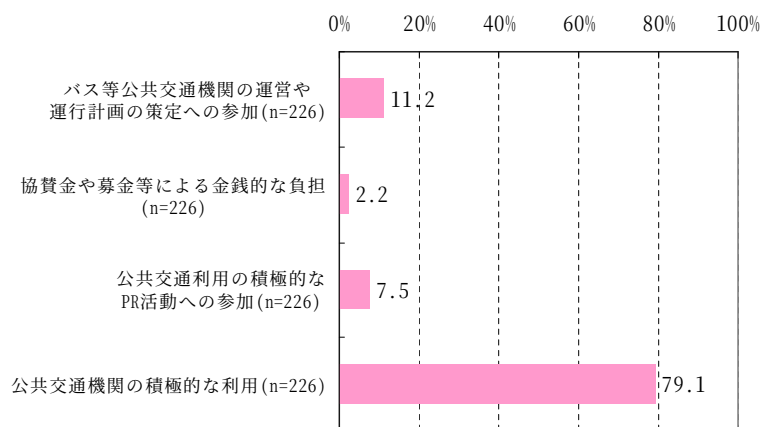
④ 公共交通機関の維持・確保のために実践していること

- 『10 万人以上都市居住者』、『10 万人未満都市居住者』ともに、「今のところ実践している取組みはない」が最も高いが、『10 万人以上都市居住者』の方が実践している人の割合が高い。
- 実践されている取組みの中で最も多いのが、「公共交通の積極的な利用」である。

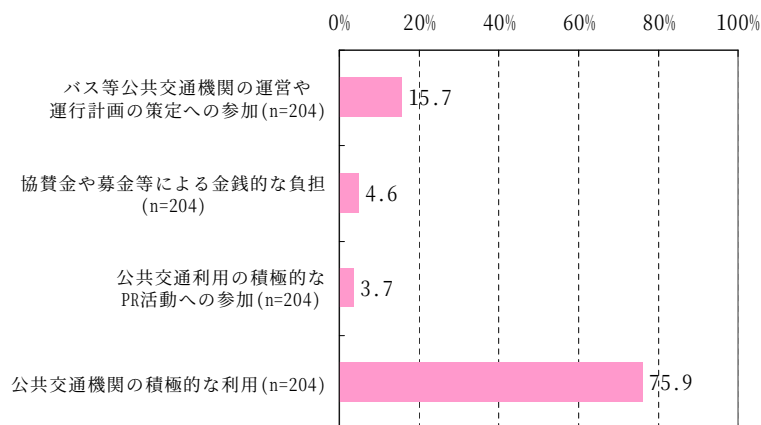
公共交通機関の維持・確保のための取組み実践状況



取組み別の実践状況（10 万人以上都市）



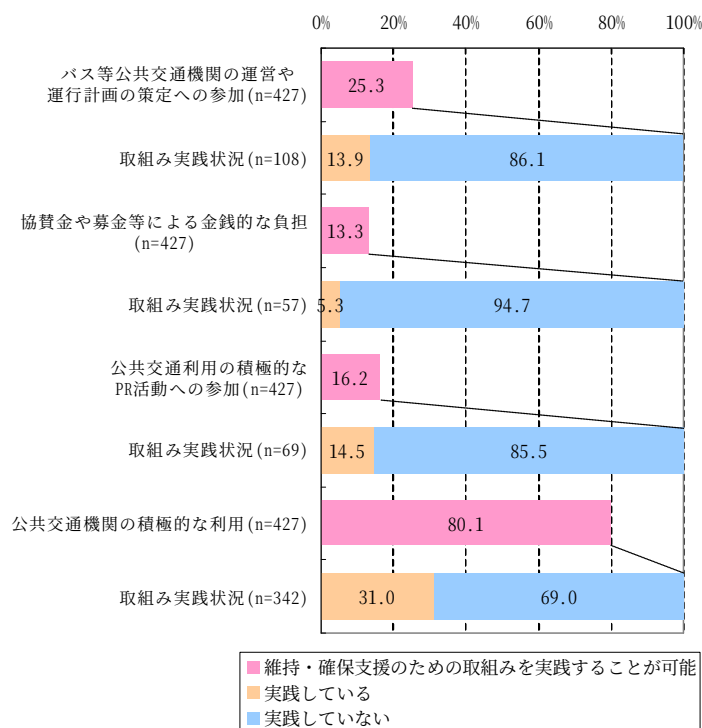
取組み別の実践状況（10 万人未満都市）



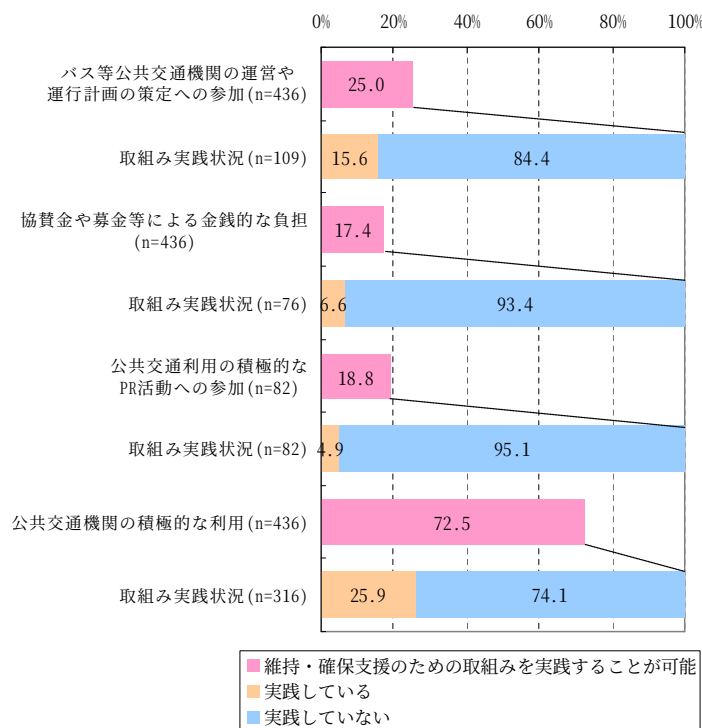
⑤ 公共交通機関の維持・確保のための取組み意向と取組み実践状況

○ 取組み意向の最も高い『公共交通の積極的な利用』でも、『10 万人以上都市居住者』、『10 万人未満都市居住者』ともに実践している人は3割前後にとどまる。

公共交通機関の維持・確保のための取組み意向と取組み実践状況（10 万人以上都市）

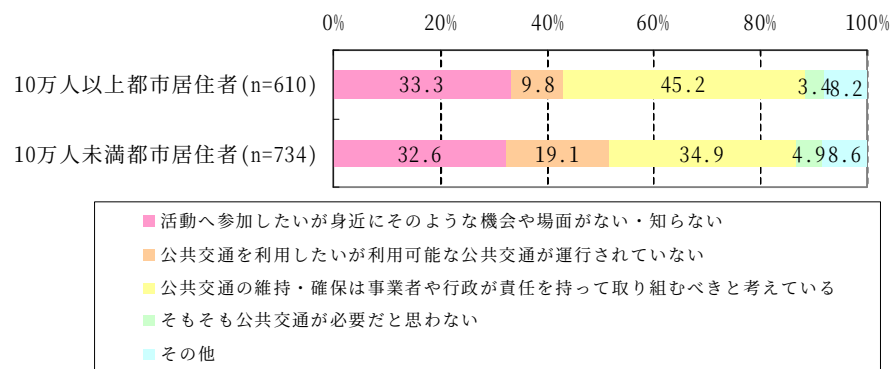


公共交通機関の維持・確保のための取組み意向と取組み実践状況（10 万人未満都市）



⑥ 公共交通機関の維持・確保のために実践していることがない理由

- 「活動へ参加したいが身近にそのような機会や場面がない・知らない」、「公共交通を利用したいが利用可能な公共交通が運行されていない」と回答した維持・確保に向けた活動への参加意向があると考えられる人は『10 万人以上都市居住者』、『10 万人未満都市居住者』ともに 5 割前後を占める。
- 維持・確保に向けた活動への参加意向があると考えられる人は、『10 万人未満都市居住者』の方が高く、「公共交通を利用したいが利用可能な公共交通が利用されていない」との回答が多い。
- 一方で、行政や事業者が責任を持って取組むべきとの回答は『10 万人以上都市居住者』の方が高い。



注) 取組み実践意向の有無に関わらず、問 5 (4) (公共交通機関の維持・確保のために実践していること) において、「今のところ実践している取組みはない」と回答した方に回答を求めた。

【参考】調査画面

問1

MDB
NET SURVEY SYSTEM

SURVEY SYSTEM

問1 回答者ご自身についてお尋ねします。

(1) 性別
☐ 1. 男性
☐ 2. 女性

(2) 年齢
☐ 1. 20歳未満
☐ 2. 20歳代
☐ 3. 30歳代
☐ 4. 40歳代
☐ 5. 50歳代
☐ 6. 60～64歳
☐ 7. 65～69歳
☐ 8. 70～74歳
☐ 9. 75歳以上

(3) お住まいの県

市町村

香川県
↓
岩手県
↓
宮城県
↓
秋田県
↓
山形県
↓
福島県
↓

町丁目・町字

(4) 自動車運転免許の保有状況
☐ 1. 運転免許を保有している
☐ 2. 返納した
☐ 3. 保有したことはない

(5) 世帯の自動車の保有状況
☐ 1. ほぼ自分専用の自動車がある
☐ 2. 家族共用の自動車がある
☐ 3. ない

(6) 世帯の家族構成
※人数は半角数字でご記入ください
☐ 1. 一人暮らし
☐ 2. 配偶者と二人
☐ 3. 二世帯 → 全員で 人
☐ 4. 三世帯以上 → 全員で 人
☐ 5. その他の世帯 → 全員で 人

お問い合わせ先>>>E-mail info@mdb-net.com
 「MDBネット」は(株)日本総研協会研究所の登録商標です。
 JMA Research Institute Inc. All rights reserved.

株式会社日本総研協会研究所は財団法人日本総研協会の
 協会(LAPPOC)より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定
 を受けています。
[プライバシーポリシー](#)

問2

MDB
NET SURVEY SYSTEM

SURVEY SYSTEM

問2 回答者ご自身の普段の移動実態についてお尋ねします。

(1) 普段の外出時に主に利用する交通手段は何ですか。
(目的別に最も利用頻度の高い手段を1つだけ回答してください)
※選択群中の「乗合タクシー」とは、路線バスと同一に知らない人同士が乗り合わせる乗り物で、一般的にはタクシー車両を利用しており、予約制(デマンド型)の場合が多い。

<通勤・通学>
☐ 1. 鉄道
☐ 2. バス
☐ 3. 乗合タクシー(※)
☐ 4. 定期船
☐ 5. 自家用車(運転)
☐ 6. 自家用車(送迎)
☐ 7. タクシー
☐ 8. 会社等の送迎バス
☐ 9. 自転車
☐ 10. 徒歩
☐ 11. その他
☐ 12. 通勤・通学はしていない

<買物>
☐ 1. 鉄道
☐ 2. バス
☐ 3. 乗合タクシー(※)
☐ 4. 定期船
☐ 5. 自家用車(運転)
☐ 6. 自家用車(送迎)
☐ 7. タクシー
☐ 8. 会社等の送迎バス
☐ 9. 自転車
☐ 10. 徒歩
☐ 11. その他
☐ 12. 買い物には行かない

<通院>
☐ 1. 鉄道
☐ 2. バス
☐ 3. 乗合タクシー(※)
☐ 4. 定期船
☐ 5. 自家用車(運転)
☐ 6. 自家用車(送迎)
☐ 7. タクシー
☐ 8. 会社等の送迎バス
☐ 9. 自転車
☐ 10. 徒歩
☐ 11. その他
☐ 12. 病院には行かない

(2) 普段、公共交通(鉄道、バス、乗合タクシー、定期船等)の利用状況はどの程度ですか。
☐ 1. 平日休日ともにほぼ毎日
☐ 2. 平日でほぼ毎日(週5日程度)
☐ 3. 週3～4日程度
☐ 4. 平日に週1～2日程度
☐ 5. 休日に週1～2日程度
☐ 6. 月に1～2日程度
☐ 7. 年に数回・ごくまれに
☐ 8. 最近1年間は利用していない

お問い合わせ先>>>E-mail info@mdb-net.com
 「MDBネット」は(株)日本総研協会研究所の登録商標です。
 JMA Research Institute Inc. All rights reserved.

株式会社日本総研協会研究所は財団法人日本総研協会の
 協会(LAPPOC)より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定
 を受けています。
[プライバシーポリシー](#)

問3

問3 お住まいの地域の状況についてお尋ねします。

(1) お住まいの市区町村内にはどのような公共交通が運行されていますか。当てはまるものをすべてお選びください。

☐ 1. 鉄道
☐ 2. バス
☐ 3. 乗合タクシー
☐ 4. 定期船
☐ 5. わからない

(2) 1. 最寄り駅・最寄り停留所について教えてください。分かる場合はどちらも記入ください。

☐ 駅名 →
☐ 停留所名 →
☐ どちらもわからない

次へ

お問い合わせ先>>>E-mail: info@mdb-net.com
 「MDB ネット」は株式会社日本地産協会研究所の登録商標です。
 JMA Research Institute Inc. All right reserved.

株式会社日本地産協会総合研究所は財団法人日本地産協会の関連会社（APPOE）より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定を受けています。
[プライバシーポリシー](#)

あなたが記載された、最寄り駅「○○」・最寄り停留所「××」についてお答えください。

(2) 1. 最寄り駅・最寄り停留所までの距離はどの程度ですか。

※半角数字で記入ください
 ※メートルで記入

☐ 最寄り駅までの距離 → 約 km
☐ 最寄り停留所までの距離 → 約 km
☐ わからない

(3) 最寄り駅、または最寄り停留所はどちらの利用が多いですか。

☐ 1. 最寄り駅
☐ 2. 最寄り停留所
☐ 3. どちらも同程度に利用
☐ 4. どちらも利用しない

(4) 最寄り駅、または最寄り停留所では、1日あたりどの程度の頻度で運行していますか。(3)で選択した方の頻度についてお答え下さい。

※インターネットや書籍、お持ちの時刻表等でお調べになった方は、「7. わからない」を選んでください。

☐ 1. 概ね15分〜1本以上
☐ 2. 概ね30分〜1本以上
☐ 3. 概ね60分〜1本以上
☐ 4. 概ね2〜3時間〜1本以上
☐ 5. 1日に数本程度
☐ 6. 週に数本程度
☐ 7. わからない

次へ

お問い合わせ先>>>E-mail: info@mdb-net.com
 「MDB ネット」は株式会社日本地産協会研究所の登録商標です。
 JMA Research Institute Inc. All right reserved.

株式会社日本地産協会総合研究所は財団法人日本地産協会の関連会社（APPOE）より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定を受けています。
[プライバシーポリシー](#)

問4 (1)

問4 公共交通機関のサービス等に対するお考えについてお尋ねします。

(1) 次の各項目に対するあなたの満足状況とサービス改善に対する意向をそれぞれお答えください。

<満足状況>

	1. 満足している	2. どちらかというくらい	3. どちらかというくらい	4. どちらかというくらい	5. 不満である	6. わからない
① 公共交通が整備されていること	☐	☐	☐	☐	☐	☐
② 駅や停留所までの距離や立地	☐	☐	☐	☐	☐	☐
③ 鉄道・バス等の乗降	☐	☐	☐	☐	☐	☐
④ 鉄道・バス等の本数	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑤ 鉄道・バス等の運賃	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑥ 列車・車両等の混雑の度合い	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑦ 目的地までの速さ・時間の正確性	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑧ 安全性	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑨ 始発や最終時刻の設定	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑩ 駅や停留所等でのサービス（売店やATMなど）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑪ 乗り換え・乗り継ぎの容易さ	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑫ ICカードなどの支払いや切符購入の利便性	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑬ バリアフリー化（段差がないことなど）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑭ 特色ある車両や車窓からの展望などの楽しさ	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑮ 遅延やキャンセル等の情報の提供や対応などの適切さ	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑯ 案内板や電光掲示板などによる乗換や運行、出口案内等に対する情報の表示・提供	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑰ 携帯電話やインターネットなどからの乗換や運行等に関する情報の表示・提供	☐	☐	☐	☐	☐	☐

次へ

お問い合わせ先>>>E-mail: info@mdb-net.com
 「MDB ネット」は株式会社日本地産協会研究所の登録商標です。
 JMA Research Institute Inc. All right reserved.

株式会社日本地産協会総合研究所は財団法人日本地産協会の関連会社（APPOE）より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定を受けています。
[プライバシーポリシー](#)

<あなたがとっての、サービス改善に対する意向>

	1. 重要度は高い	2. 重要度は中	3. 重要度は低い	4. 重要度はわからない
① 公共交通が整備されていること	☐	☐	☐	☐
② 駅や停留所までの距離や立地	☐	☐	☐	☐
③ 鉄道・バス等の乗降	☐	☐	☐	☐
④ 鉄道・バス等の本数	☐	☐	☐	☐
⑤ 鉄道・バス等の運賃	☐	☐	☐	☐
⑥ 列車・車両等の混雑の度合い	☐	☐	☐	☐
⑦ 目的地までの速さ・時間の正確性	☐	☐	☐	☐
⑧ 安全性	☐	☐	☐	☐
⑨ 始発や最終時刻の設定	☐	☐	☐	☐
⑩ 駅や停留所等でのサービス（売店やATMなど）	☐	☐	☐	☐
⑪ 乗り換え・乗り継ぎの容易さ	☐	☐	☐	☐
⑫ ICカードなどの支払いや切符購入の利便性	☐	☐	☐	☐
⑬ バリアフリー化（段差がないことなど）	☐	☐	☐	☐
⑭ 特色ある車両や車窓からの展望などの楽しさ	☐	☐	☐	☐
⑮ 遅延やキャンセル等の情報の提供や対応などの適切さ	☐	☐	☐	☐
⑯ 案内板や電光掲示板などによる乗換や運行、出口案内等に対する情報の表示・提供	☐	☐	☐	☐
⑰ 携帯電話やインターネットなどからの乗換や運行等に関する情報の表示・提供	☐	☐	☐	☐

次へ

お問い合わせ先>>>E-mail: info@mdb-net.com
 「MDB ネット」は株式会社日本地産協会研究所の登録商標です。
 JMA Research Institute Inc. All right reserved.

株式会社日本地産協会総合研究所は財団法人日本地産協会の関連会社（APPOE）より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定を受けています。
[プライバシーポリシー](#)

問4 (2)

(2) 満足度と改善のご意向について、ここまでにお答えいただいた各項目を経合した場合、あなたの公共交通に対する評価はどのような感じですか。

また、ご家庭にとって公共交通機関のサービス改善に対してどのような考えですか。

< 公共交通に対する総合評価 >

■ 満足状況

☐ 1. 満足している

☐ 2. どちらかといえば満足している

☐ 3. どちらかといえば不満である

☐ 4. 不満である

☐ 5. わからない

■ あなたにとっての、サービス改善に対する意向

☐ 1. 重要度が高い

☐ 2. 重要度が低い(自分には関係ない)

☐ 3. わからない

■ あなたのご家庭にとっての、サービス改善に対する意向

☐ 1. 重要度が高い

☐ 2. 重要度が低い(自分の家庭には関係ない)

☐ 3. わからない

次へ

お問い合わせ先>>> mail@mdb-net.com

「MDBネット」は(株)日本総合協会研究所の登録商標です。

JMA Research Institute Inc. All rights reserved.

株式会社日本総合協会総合研究所は財団法人日本情報処理開発協会(JAPRO)より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定を受けています。

[プライバシーポリシー](#)

問5

問5 近年、少子高齢化やモータリゼーションの進展、石油高騰等の社会情勢の変化に伴い、独立採算制を基本とする公共交通機関の維持・確保が困難な状況にあります。この点を踏まえ、次の設問についてあなたのお考えに近いものをお答えください。

(1) 公共交通機関の維持・確保が困難な状況にあることをご存知ですか。

☐ 1. 知っている

☐ 2. 知らない

(2) 公共交通機関についてどのようにお考えですか。

☐ 1. 日常生活のためになくては困るもの

☐ 2. 日常では使わないが、ないとも困る場面がある → 困る場面:

☐ 3. ほとんど使わないが、ないよりはあったほうが良いもの

☐ 4. 必要性を感じないもの

☐ 5. その他

(3) 公共交通機関の維持・確保にむけて、あなた自身ができることは何かありますか。あてはまるものすべてをお選びください。

☐ 1. バス等公共交通機関の運営や運行計画の策定への参加

☐ 2. 乗車金や乗金等による金銭的な負担

☐ 3. 公共交通利用の積極的なPR活動への参加

☐ 4. 公共交通機関の積極的な利用

☐ 5. 維持・確保に対して支援する関わり

☐ 6. わからない

☐ 7. その他

(4) 上記(3)のうち、あなたが今実践していることはありますか。あてはまるものすべてをお選びください。

☐ 1. バス等公共交通機関の運営や運行計画の策定への参加

☐ 2. 乗車金や乗金等による金銭的な負担

☐ 3. 公共交通利用の積極的なPR活動への参加

☐ 4. 公共交通機関の積極的な利用

☐ 5. 今のところ実践している取組みはない

☐ 6. その他

次へ

お問い合わせ先>>> mail@mdb-net.com

「MDBネット」は(株)日本総合協会研究所の登録商標です。

JMA Research Institute Inc. All rights reserved.

株式会社日本総合協会総合研究所は財団法人日本情報処理開発協会(JAPRO)より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定を受けています。

[プライバシーポリシー](#)

問5 (5)

(5) 公共交通機関の維持・確保にむけて今実践していることが「ない」とお答えの所にお尋ねします。今実践していない理由は何ですか。

☐ 1. 活動へ参加したいが身近にそのような機会や場面がない・知らない

☐ 2. 公共交通を利用したいが利用可能な公共交通が運行されていない

☐ 3. 公共交通の維持・確保は事業者や行政が責任を持って取り組むべきと考えている

☐ 4. そもそも公共交通が必要だと思わない

☐ 5. その他

次へ

お問い合わせ先>>> mail@mdb-net.com

「MDBネット」は(株)日本総合協会研究所の登録商標です。

JMA Research Institute Inc. All rights reserved.

株式会社日本総合協会総合研究所は財団法人日本情報処理開発協会(JAPRO)より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定を受けています。

[プライバシーポリシー](#)

問6

問6 その他、公共交通機関に関するご意見等ありましたらお書きください。

次へ

お問い合わせ先>>> mail@mdb-net.com

「MDBネット」は(株)日本総合協会研究所の登録商標です。

JMA Research Institute Inc. All rights reserved.

株式会社日本総合協会総合研究所は財団法人日本情報処理開発協会(JAPRO)より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定を受けています。

[プライバシーポリシー](#)

終了画面

以上でアンケートは終了です。下記の送信ボタンを押して送信してください。

お問い合わせ先>>> mail@mdb-net.com

「MDBネット」は(株)日本総合協会研究所の登録商標です。

JMA Research Institute Inc. All rights reserved.

株式会社日本総合協会総合研究所は財団法人日本情報処理開発協会(JAPRO)より、プライバシーマークの使用許諾事業者の認定を受けています。

[プライバシーポリシー](#)